

# 未来社会を切り拓くための資質・能力の育成

——教科の見方・考え方を働かせ、  
パフォーマンス課題を取り入れた単元デザインを通して——

宮里 恵太 <sup>*1</sup>	下地 農 <sup>*2</sup>	松千実 光 <sup>*3</sup>	伊佐 義史 <sup>*3</sup>
高良 由加利 <sup>*3</sup>	山城 富 <sup>*3</sup>	伊藝 俊 <sup>*3</sup>	島袋 陽 <sup>*3</sup>
伊元 岐 <sup>*3</sup>	屋慶名 聡子 <sup>*1</sup>	砂川 駿 <sup>*4</sup>	渡慶次 小百合 <sup>*5</sup>
松田 幸士 <sup>*6</sup>	玉元 大輔 <sup>*7</sup>	古川 弥生 <sup>*8</sup>	八幡 史織 <sup>*9</sup>
久銘次 亮 <sup>*10</sup>	宮里 盛清 <sup>*11</sup>	知念 悠美 <sup>*12</sup>	国吉 大二郎 <sup>*13</sup>

キーワード	学習指導要領 単元デザイン パフォーマンス課題 授業改善 主体的・対話的で深い学び 指導と評価の一体化 探究 見方・考え方
-------	---

## I はじめに

Society5.0 と呼ばれる新たな時代の到来が、社会や生活を大きく変えていく。また、情報化やグローバル化が進展する社会においては、多様な事象が複雑さを増し、変化の先行きを見通すことが一層難しくなっている。そうした予測困難な時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を獲得し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくことが求められている。平成28年12月の中央教育審議会答申（以下、「28年答申」）においては、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を学校教育の中で子供たちに育むことが示された。この流れを受け、高等学校では、教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指し、令和4年度入学生から『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』（以下、『要領』）が順次施行された。その中では、生徒に目指す資質・能力を育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことが求められている。

生徒が資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善を進める上で重要なことが、各教科等で通常行われている学習活動の質を向上させることである。『要領』には「1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること」と示されており、単元デザインを綿密にかつ効果的に考えなくてはならない。また、「深い学び」の鍵として、各教科等の「見方・考え方」を働かせることに留意して取り組むことなども重要であると言われている。「見方・考え方」には教科等ごとの特質があり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、教科等の教育と社会をつなぐものである。端的に言えば、学習指導要領の着実な実施が、未来社会を切り拓く資質・能力の育成のための方策であると言える。しかし、今年度から高等学校の全ての学年で学習指導要領が実施となったばかりで、授業実践の蓄積はまだ始まったところである。

そこで本研究では高等学校各教科で「主体的・対話的で深い学び」になることを目指した1単元等のデザインに取り組む。単元デザインでは、教科の特性を生かしパフォーマンス課題を盛り込み、評価規準の作成から指導と評価の計画、実践を行うこととする。単元デザインを綿密に行い、単元の評価規準を明確に提示することで、生徒は授業の中で何をどう取り組むかを理解し、めあてや目標の達成のために、具体的な取り組み方法を考え、主体的に学習に取り組むようになるのではないかと考える。それはひいては、生徒が自らの学習を振り返って

<sup>\*1</sup> 沖縄県立総合教育センター指導主事 <sup>\*2</sup> 沖縄県立総合教育センター主任研究主事

<sup>\*3</sup> 沖縄県立総合教育センター研究主事 <sup>\*4</sup> 県立西原高等学校教諭 <sup>\*5</sup> 県立北谷高等学校教諭

<sup>\*6</sup> 県立沖縄水産高等学校教諭 <sup>\*7</sup> 県立コザ高等学校教諭 <sup>\*8</sup> 県立糸満高等学校教諭 <sup>\*9</sup> 県立向陽高等学校教諭

<sup>\*10</sup> 県立普天間高等学校教諭 <sup>\*11</sup> 県立中部商業高等学校教諭 <sup>\*12</sup> 県立北中城高等学校教諭 <sup>\*13</sup> 県立球陽高等学校教諭

次の学習に向かう原動力にもなると考える。研究の最後には、生徒や研究協力員の事前・事後アンケート結果などによる考察を行う。主体的・対話的に取り組む場面はもちろん、生徒が自らの考えを構築する時間、各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面を設定するなど、深い学びに導くような手立てを各教科にて行い、生徒のもつ未来社会を切り拓く資質・能力の一層の育成を目指す。

## Ⅱ 研究内容

### 1 未来社会を切り拓くための資質・能力とは

#### (1) 今回の『要領』が目指す資質・能力とは

従前にあった、「生きる力」と「学力」を前提に、今回の『要領』では、今後のより激しい社会の変化に対応するため、学習者である子供たちが学校教育を通じて、「何ができるようになるか」が示され、次にそのために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が示されている。この「何ができるようになるか」の部分が、未来社会を切り拓くための資質・能力であると考え。資質・能力は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱で整理される。

#### (2) 本研究で身に付けさせたい資質・能力について

今回の『要領』を作成する際の「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」（平成26年3月）では、現在の学習指導要領に定められている各教科等の教育目標・内容を3つの視点で分析している。1つ目は教科等を横断する汎用的なスキル（コンピテンシー）等に関わるもの、2つ目は教科等の本質に関わるもの、3つ目は教科等の固有な知識や個別スキルに関するもの、である。これまで教科等で主に重視し教えてきたのは2つ目、3つ目の視点になるが、それらのみならず、1つ目の汎用的なスキルも同時に育成する必要がある。

そこで本研究では単元デザインを通して、資質・能力の3つの柱の中でも特に思考力・判断力・表現力等の育成に軸をおき、主体的・対話的で深い学びを通した汎用的なスキルの育成にも取り組みたい。

### 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について

#### (1) 主体的・対話的で深い学びとは

先に述べた『要領』の「どのように学ぶか」の部分に大きく関わってくるのが「主体的・対話的で深い学び」である。「28年答申」では、「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする」ための授業改善の視点が以下のように示されている。

- ①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかどうか。
- ②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

主体的・対話的で深い学びとは、生徒が学びに興味・関心を持つところから始まるが、授業者はそうした仕掛けづくりだけではなく、生徒にどのような力を身に付けさせたいと考えているか、という学びのゴールを生徒と共有することも忘れてはならない。授業者と学習者との間で学びの視点を往還させられるよう、以上に挙げた3つの視点を意識して授業者が授業の改善を行うことが、学習者の学びの態度を変容させ、主体的・対話的で深い学びの実現に近づくと考える。

#### (2) 各教科の見方・考え方とは

『要領』では、「主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善を進めるに当たり、特に『深い学び』の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが『見方・考え方』である。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である『見方・考え方』は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものにし、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要な

ものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である」と示されている(表1)。こうした見方・考え方はこれまでの授業の中でも重視されてきたものであるが、本研究では「深い学び」の鍵として、生徒に意識させられるような各教科の特質に応じた学習活動の充実を図っていく。

表1 各教科の見方・考え方(学習指導要領解説、各教科より)

教科等	見方・考え方
国語 「言葉による見方・考え方」	生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること
地理 「社会的事象の地理的な見方・考え方」	社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること
数学 「数学的な見方・考え方」	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的、発見的、体系的に考えること
理科 「理科の見方・考え方」	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること
保健体育 「体育の見方・考え方」	生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」
共通・家庭 「生活の営みに係る見方・考え方」	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること
外国語 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

(3) 単元デザインについて

本研究では、言語活動の充実、ICTの活用も念頭に置きながら、単元の終末に全ての教科でパフォーマンス課題に取り組み、課題解決に向けた取組を各教科で行うこととした。パフォーマンス課題とは様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような課題(レポート、展示物、プレゼンテーションなど)のことであり(図1)。単元デザインの具体としては、単元の導入においてパフォーマンス課題に向けて見通しを与え、動機付けを行い、展開ではパフォーマンス課題に向けて、必要な力(知識、スキル、理解)を身に付けさせ、締めくくりではパフォーマンス課題の成果を発表する。自分事としてパフォーマンス課題の解決に向け、単元の中で個人や協働的に取り組む中で思考し、判断し、表現まで取り組むことで、汎用的スキルの育成も図っていく。

次ページより、各学校の生徒の実態に応じた単元デザインを考えていきたい。なお、紙幅の関係上、各科目の実践報告は2ページとなっている。詳細は各教科の詳細報告 Web ページを参照。

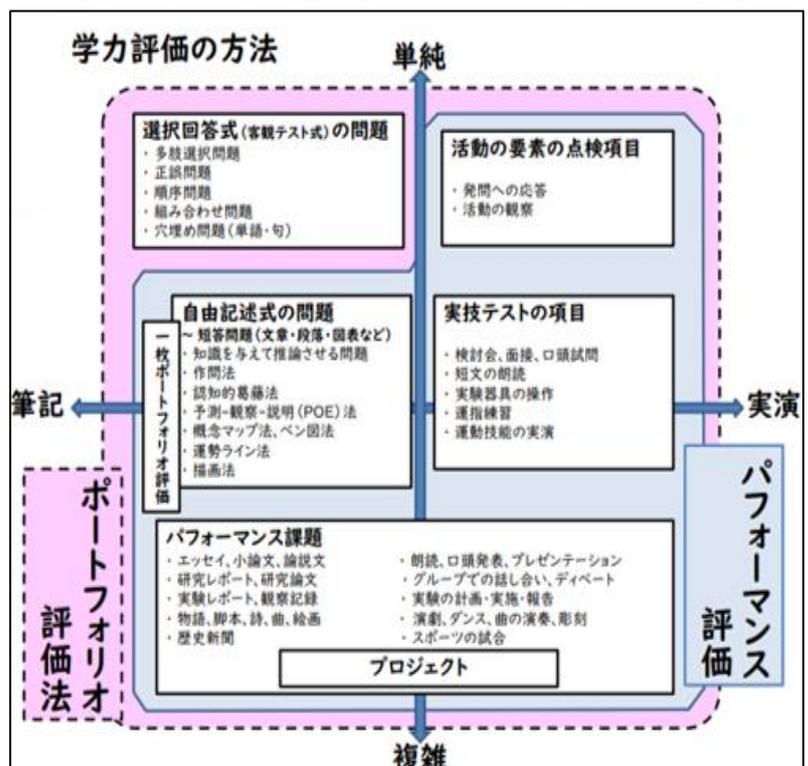


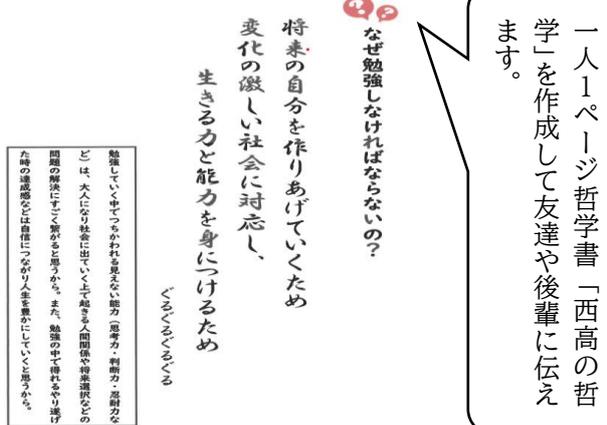
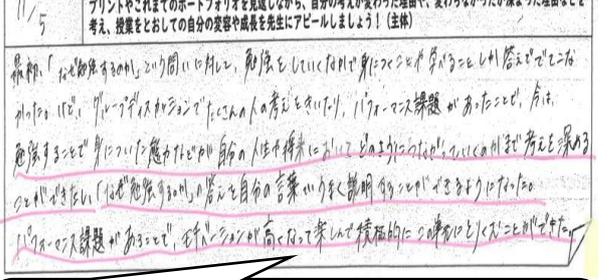
図1 パフォーマンス課題とは

教科・科目名		国語「論理国語」	学年	第2学年
科目の目標 (2)		論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
単元名		学ぶことの意義について自分の考えを深め、「なぜ勉強しなければならないのか」について自分なりの答えを出そう。		
単元 の 評 価 規 準	観点	生徒の姿		主な評価方法・材料
	【知】	文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。		ワークシート ペーパーテスト
	【思】	「読むこと」において人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。【B(1)カ】		ワークシート ペーパーテスト パフォーマンス課題
	【態】	今までの学習を生かしながら、粘り強く、「なぜ勉強しなければならないのか」について考えを深め、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、自分の考えを深めようとしている。		振り返りシート
本単元における「パフォーマンス課題」				
「パフォーマンス課題」		「なぜ勉強しなければならないのか」について自身の考えを深め、高校生哲学者として哲学書『西高生の哲学』を創ろう。		
本質的な問い		なぜ勉強しなければならないのか。		
6 要 素	① 目的	「なぜ勉強しなければならないのか」という本質的な問いに対する答えを持ち、自分なりの言葉で表現する。		
	② 役割	西原高等学校の高校生哲学者		
	③ 相手	西原高等学校の生徒・職員		
	④ 状況	西原高等学校の高校生哲学者		
	⑤ 作品	「なぜ勉強しなければならないのか」という問いに対して、高校生哲学者として答えを導き出し、一枚の紙にまとめる。		
	⑥ 評価	【思】を評価基準（ループリック）で評価		

【指導と評価の計画】 ◎:記録に残す評価 ○:指導に生かす評価

次	学習活動	学習活動の留意点	評価の観点		
			知	思	態
1	○「なぜ勉強しなければならないのか」について自分なりの考えを書く。 ・パフォーマンス課題を確認し、学習の見通しを持つ。	・単元前と後で考えを比較する旨を伝えた上で、現時点での自分なりの答えを具体的に書くよう声かけをする。	◎	○	
2	・第一段～第四段の本文読解をする。 「知恵には『広さ』があり、『深さ』があり、また『強さ』というものがある。」を簡潔に説明できるようにする。	・事前に収集しておく「情報収集シート」の進捗状況を確認する。		◎	○
3	・周りの信頼できる大人、身近な人から「なぜ勉強しなければならないのか」意見を収集する。 ・タブレットや本を活用しながら、情報を収集する。	・次の時間に、自分なりの答えをまとめることを伝える。		○	○
4	・これまでの学習をもとに「なぜ勉強しなければならないのか」について自分なりの答えをまとめる。	・Teamsにてパフォーマンス課題の記入用紙を課題配信しておく。		◎	◎

【授業の実際】(7/7)

<p>1. 前時までを振り返る。本時の目標を確認し、学習の見通しを持つ。情報収集シートを共有する。</p>	<p>2. 「なぜ勉強しなければならないのか」について自分の答えと理由をまとめる(個人)。</p>
 <p>高校生哲学者となって「なぜ勉強するのか」について西原高校の友達や後輩に伝えます。</p>	 <p>普段あまり意識したことないけどなぜ勉強しなければならないんだろう。</p>
<p>3. グループで交流する。全体で共有する。あらためて問いに対する自分の答えを書く。</p>	<p>4. 振り返りシートを記入する。</p>
	 <p>「なぜ勉強するか」の答えを自分の言葉でうまく説明することができた。パフォーマンス課題があることでモチベーションが高くなって楽しんで積極的にこの単元に取り組むことができた。</p>

【実践の効果】

高校生にとって勉強は身近なものでありながらも普段意識して考える機会は少ないはずで、どのように自分事として捉えることができるかが大切である。そこでパフォーマンス課題として「高校生哲学者」という役割意識、「哲学書『西高生の哲学』を創る」という目的意識、「友達や後輩に伝える」という相手意識をはっきりさせたことで、生徒たちは家族や周りの信頼できる大人に聞いたり、本や検索機能で調べたり、友人同士で話し合ったりしながら問いに対して思考を深めていた。下表のように生徒の回答や振り返りには国語の特質である「言葉による見方・考え方」を働かせて「勉強」という言葉の意味について考えを深めている様子が見える記述もあった。

表 問いに対する生徒の答えと振り返りの記述例

<p>「なぜ勉強しなければならないか」 生徒の記述例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今で忍耐力をつけ将来社会に貢献できるようにするため。基礎的なことを学んで、考えの幅を広げ色々な問題解決策を浮かべるようにするため。</li> <li>・将来の自分を作りあげていくため変化の激しい社会に対応し、生きる力と能力を身につけるため。</li> </ul>
<p>振り返り記述例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強の意味とか、やらないといけない意味とかは分からない。だけど疑問を持った瞬間からそれは勉強といえと、この単元を通して気付いた。一つのことに対して何でやらないといけないんだろう？何の役に立つんだろう？と考えて答えを導こうとする行為こそが勉強だと思う。</li> </ul>

このような結果から、答えのない問いに対して役割、目的、相手意識をはっきりさせたパフォーマンス課題を設定したことで生徒が思考を深めたことが読み取れる。以上のことからパフォーマンス課題を取り入れた単元計画の策定は生徒の思考力・判断力・表現力の育成に効果的であった。

科・科目名		地理歴史「地理総合」	学年	第1学年
科目の目標 (2)		地理に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		
単元名		歴史的背景と人々の生活 追究事例 ラテンアメリカ		
単元の 評価 規準	観点	生徒の姿		主な評価方法・材料
	【知】	世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。		ペーパーテスト ノート
	【思】	世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。		パフォーマンス課題 リフレクションシート
	【態】	世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図り、他者と協働しながらよりよい社会の実現に向けた意識を高め、自分にできることを主体的に追究しようとしている。		リフレクションシート
本単元における「パフォーマンス課題」				
パフォーマンス課題		ラテンアメリカからおじが帰って来ました。「ラテンアメリカと故郷への恩返しに、沖縄に本社、ラテンアメリカのどこかに支社を同時につくって経済的に貢献したい。どの国にどんな分野で起業したらいいと思う？」あなたはラテンアメリカと沖縄（日本）の生活文化の共通点、相違点を踏まえ、おじに提案することにしました。		
本質的な問い		多様な習慣や価値観をもっている人々と共存するために、最も大切なことは何だと思うか。		
6 要素	① 目的	ラテンアメリカと沖縄(日本)の生活文化の共通点、相違点を踏まえ、どの国にどんな業種の会社を起業するか南米帰りのおじに提案する。		
	② 役割	沖縄在住の高校生		
	③ 相手	ラテンアメリカ帰りのおじ		
	④ 状況	ラテンアメリカから帰国したばかりのおじさんに、説得力ある起業プランを説明する。		
	⑤ 作品	おじさんへのプレゼン		
	⑥ 評価	【思】評価基準で評価		
	A	起業の分野、支社の場所について、生活文化、歴史的な背景の相違点や共通点など地理的理由も含めて多面的・多角的に考察し、説得力あるプランを提示している。		
	B	起業の分野、支社の場所について、生活文化、歴史的な背景の相違点や共通点など地理的理由のどれかに触れて考察し、プランを提示している。		
	C	上記に該当しない		

【指導と評価の計画】

時	学習項目	FQ＝単元を貫く問い、MQ＝本時の問い、*＝ねらい、 ◎ペーパーテスト、○リフレクションシート、☆パフォーマンス課題、●指導に生かす評価	評価の観点		
			知	思	態
1	歴史的背景と人々の生活	【FQ】多様な習慣や価値観をもっている人々と共存するために、最も大切なことは何だと思うか。 【MQ】歴史的背景が人々に与える影響とはどのようなものか。 *学習前にFQへの自分の考えを記入し、MQも踏まえて本単元学習の見通しを持つ。	◎		●
2	ヨーロッパ社会の影響が強い文化	【MQ】さまざまな民族の流入が生活文化に与えている影響はどんなものがあり、あなたが一番印象に残った影響はどれか。その理由は？ *MQとパフォーマンス課題を提示し、課題意識を持って学習に取り組む。民族流入が社会や文化に与えた影響の大きさについて理解する。	◎	●	
3	歴史的背景と産業(農業)	【MQ】今のラテンアメリカの人々にとって、宗主国(かつての支配国)やその他外国の存在はどのようなものだと思うか。下から選んであなたの考えを書いてください。 ( プラス ・ どちらでもない ・ マイナス ) *アルゼンチンにプランテーションが発達しなかったわけを気候から読み取り、歴史的な背景によって生まれた大土地所有制が現代の社会構造に与える影響などを考察する。	◎		
4	歴史的背景と産業(工業)	【MQ】今のラテンアメリカの人々にとって、宗主国(かつての支配国)やその他外国の存在はどのようなものだと思うか。下から選んであなたの考えを書いてください。 ( プラス ・ どちらでもない ・ マイナス ) *前時の内容を踏まえ、現代の経済格差についてモノカルチャー経済から脱却し工業化した社会が抱える問題に気づき、現地にとっての最善策を考察する。	◎	●	
5	沖縄の移民とラテンアメリカ	【パフォーマンス課題】ラテンアメリカ帰りのおじに、沖縄とラテンアメリカに置く会社のアイデアをプレゼンしよう。			●

	カ	*ラテンアメリカと沖縄両者の間にある歴史的背景を踏まえ、相違点や共通点などを地理的理由も含めて多面的・多角的に考察し、説得力あるプレゼンを作成することができる。		
6	単元のまとめ	【FQ】多様な習慣や価値観をもっている人々と共存するために、最も大切なことは何だと思うか。 *パフォーマンス課題をまとめあげ、改めてFQについて自分なりの考えをまとめる。	☆	○

【授業の実際】

授業全6時中、ここでは第4・5時の取り組み概要と生徒の成果物を紹介する。

第4時 歴史的背景と産業（工業）		
1. 町の風景から格差を考察	2. 輸出品目グラフの変化	3. リフレクションシート記入
 <p>斜面に住宅が広がっていてホテルとの落差がすごい</p> 	 <p>輸出品目が1次産品から機械中心になっている！ どうやって変えたんだろう？</p>	 <p>外国から借金しても工業化すべきと思うけど、限度があるんじゃないかな</p>
地図アプリでリオデジャネイロの町の中を散策し、経済格差解消のための方策を話し合う。	輸出品目のグラフや各国国民一人当たりのGNI、累積債務額などの資料を見比べ、工業化できた背景についてペアで考える。	これまでの意見を踏まえ本時の問い（MQ）に対する自分なりの考えを、前時の内容も踏まえてR80でまとめ、シェアする。
第5時 沖縄の移民とラテンアメリカ		
1. 沖縄移民との関係	2. 沖縄移民クイズ	3. 自己の考えを構築
 <p>ラテンアメリカと沖縄って深い関係があるんだ</p>	<p><b>Question!</b></p> <p>1899年から1938年の沖縄から海外への移住者数、約何人でしょう？</p> <p>A 約1万人 B 約5万人 C 約7万人 D 約12万人</p> <p>これは昭和15年（1940年）の沖縄県の人口の約？%にあたる</p>	 <p>どんな産業にするか、どこに支社を置くか、複雑だな…</p>
ラテンアメリカと沖縄の移民の歴史的背景を知り、課題を自分事として捉える。	クイズを通して、沖縄とラテンアメリカとの関係について理解を深める。	これまでの学習内容を踏まえ、ペアとも相談しつつパフォーマンス課題に取り組む。
生徒のパフォーマンス課題作品		FQの学習前後の考えの変容
<p><b>私が選んだ国は  ペルー です</b></p> <p>私が選んだ国は（ ペルー ）です。</p> <p>（ <b>第三次産業</b> ）の（ <b>沖縄料理の飲食店</b> ）がいいんじゃないかと思います。</p> <p>なぜなら（ <b>ペルー</b> ）は</p> <p>現在は在ペルー全日系人のうち約7割がウチナンチュで、沖縄の食文化が親しみやすいかなと思ったからです。ペルーは漁獲量が世界3位で、中でも海岸地域などではイカやタコ漁が盛んで日本のイカ輸入でペルーが2位になっています。ペルーではイカやタコ料理をソウルフードになるほどよく食べられていて、沖縄でも刺身や汁物でよく食べられているという共通点が見られます。なので、沖縄のイカ汁や天ぷら、刺身を提供して沖縄の食文化を楽しみながら、ペルーの海鮮料理も一緒に楽しめたらいいかなと思ったからです。また、ペルーでは非正規に漁を行う業者が多いのが課題点として挙げられているため、許可を貰っている業者のみ魚類を受け取ることで、許可を取ろうとする業者が増えてよくなるかなと考えました。</p> 		<p>【学習前】自分とは違う価値観を否定したりしないことだと思う。なぜなら、価値観を否定されるとその人が傷ついたりして戦争になってしまうかもしれないから。</p> <p>↓</p> <p>【学習後】共通点や相違点などを知り、どのようにして互いの苦手な部分をおぎなうのか考えていくことだと思う。そうすると、自然と相手を否定しないで認めることができるから。</p>

【実践の効果】

事後アンケートによると「これまでの学習を紐付けて考えることができた」「授業で習ったこと以外も調べることができ、さらに理解を深めることができた」など、94%の生徒がパフォーマンス課題を肯定的に捉えていた。また、パフォーマンス課題に取り組む前後で単元を貫く問い（FQ）の記述を比較したところ、学習後は具体的かつ現実的な記述が増え、パフォーマンス課題が社会的事象を自分事として捉えるきっかけとなったことがうかがえた。単なる異文化の理解にとどまらず「自他の文化」を尊重する考察が増え、よりよい社会の実現を視野に、主体的に学ぼうとする「深い学び」につながる姿勢が垣間見えた。以上のことから、パフォーマンス課題を取り入れた単元計画の策定は、生徒の思考力・判断力・表現力の育成に効果があったと考えられる。

教科・科目名		数学「数学A」	学年	第1学年
科目の目標 (2)		図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。		
単元名		場合の数と確率		
単元 の 評 価 規 準	観点	生徒の姿		主な評価方法・材料
	【知】	・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。		小テスト 定期テスト
	【思】	・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。		パフォーマンス課題 定期テスト
	【態】	・事象を確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。		パフォーマンス課題 振り返りシート
本単元における「パフォーマンス課題」				
「パフォーマンス課題」		あなたは文化祭実行委員です。文化祭において、経費を捻出するためにくじを行うことにしました。高校生が参加したくなるくじを作ろう。		
本質的な問い		確率的に魅力的なくじとは、どのようなものだろうか？		
6 要 素	① 目的	高校生が参加したくなる魅力的なくじを作成する。		
	② 役割	文化祭の実行委員		
	③ 相手	高校生		
	④ 状況	文化祭の経費を捻出するためにくじを販売		
	⑤ 作品	くじ		
	⑥ 評価	評価基準に基づく（別掲）		

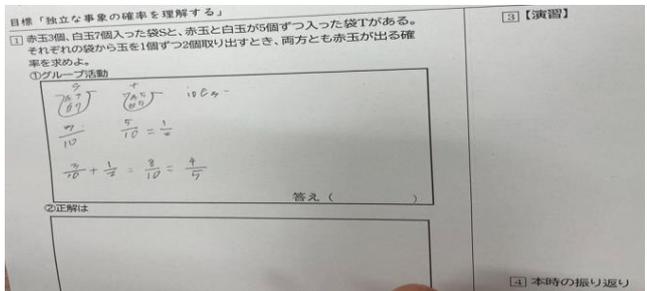
【指導と評価の計画】（◎：記録に残す評価 ○：指導に活かす評価）

時	学習内容等	見方・考え方	評価		
			知	思	態
1	確率の定義、同様に確からしい、単元の見通しを理解する。	数に着目・表現	○	○	
2	確率の基本性質、和事象、余事象の確率を理解する。	数の関係に着目	○	○	
3	演習を通して定着を図る。		◎		○
4	独立な確率を理解する。	数の関係に着目	○	○	
5	反復試行の確率を理解する。	数に着目	○	○	
6	演習		◎		○
7	条件付き確率を理解する。	論理的に	○	◎	
8	確率の乗法定理を理解する。	論理的に	○	○	
9	期待値を理解する。	数に着目	○	○	
10	パフォーマンス課題	統合的に		◎	◎

\*数学的な見方・考え方とは「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること」である。

\*上表左の数字と右ページの数字がそれぞれ対応している。最初の文が各時間の問いである。

【授業の実際】(抜粋)

<p>1. 赤玉2個、白玉2個入った袋から同時に2個取り出す。 赤玉1個、白玉1個が出る確率は？</p>	<p>2. クラスから1人選んだとき、条件Aまたは条件Bを満たす確率は？(合計1を超えるもの)</p>																											
<p>個人で考えてグループで共有から、全体で共有。 追加の発問(生徒から出ればそこを共有) 「起こる場合って全部で赤2, 赤1白1, 白2の3通りだよ ね。だから答えは3分の1じゃダメなの？」 生徒にどれが正しいのか考えてもらう。 教師は話し合いの意見を拾いながら追加の発問を投げ、結論 を導く。その中で、「確率の定義」と「同様に確からしい」 を導出する。</p>	<p>授業始めにグループ全体で今日の問いを確認。</p> 																											
<p>4. 赤玉3個、白玉7個入った袋Sと赤玉白玉5個ずつ入った袋Tがある。それぞれから1個ずつ取り出すとき 両方から赤玉が出る確率は？(かける？たす？)</p>	<p>5. 3枚の硬貨を同時に投げたとき、 ちょうど2枚表が出る確率は？ (前時の独立な確率と結びつけて)</p>																											
<p>生徒のワークシート(グループ活動に入る前の個人の考えを 書いている。出てほしい誤答になっている)</p> 	<p>個人で考えたり、ペアで話したり、グループで考えたりしながら、思考を深めている。</p> 																											
<p>7. モンティホール問題の確率はどうなる？</p>	<p>8. 順に引くくじ引き、先と後で確率は変わる？</p>																											
<p>教科書付属のソフトで実験した結果を集約し、変更する、しないで確率が変わることを実感した後、確率を考えた。</p> 	<p>10. 高校生が引きたくなるくじを作ろう！ 皆が引きたくなるくじを考える際に、期待値という基準を用いて考える見方が働いている。</p> <p>③ 改良したくじ</p> <table border="1" data-bbox="813 1265 1388 1377"> <thead> <tr> <th></th> <th>1等</th> <th>2等</th> <th>3等</th> <th>4等</th> <th>5等</th> <th>6等</th> <th>ほか</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>賞金数</td> <td>5000</td> <td>2000</td> <td>1000</td> <td>300</td> <td>200</td> <td>50</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本数</td> <td>3</td> <td>10</td> <td>50</td> <td>200</td> <td>500</td> <td>236</td> <td>1000</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>改良したところ、理由 グループの人たちは期待値が結構低くて、引いてみたいと思えたから、1等や2等の本数をさらに減らしてみた。</p>		1等	2等	3等	4等	5等	6等	ほか	計	賞金数	5000	2000	1000	300	200	50	0		本数	3	10	50	200	500	236	1000	
	1等	2等	3等	4等	5等	6等	ほか	計																				
賞金数	5000	2000	1000	300	200	50	0																					
本数	3	10	50	200	500	236	1000																					
<p>9. あなたはこのくじ、いくらなら引きますか？ また、引かせるなら値段をいくらにしますか？</p>	<p>④ 本時の振り返り 皆が参加したくなるくじを作る際には、なるべく期待値をくじの値段の200円に近づけることが大事だと思っ た。確率計算シートは何回も書き出すことで、参加したくなるように なると気づいた。</p> <table border="1" data-bbox="1109 1579 1404 1691"> <tr> <td>過去の経験や学習とつなげた記述</td> <td>3点</td> </tr> <tr> <td>工夫した内容の記述</td> <td>2点</td> </tr> <tr> <td>新規の公式や単元の羅列</td> <td>1点</td> </tr> </table>	過去の経験や学習とつなげた記述	3点	工夫した内容の記述	2点	新規の公式や単元の羅列	1点																					
過去の経験や学習とつなげた記述	3点																											
工夫した内容の記述	2点																											
新規の公式や単元の羅列	1点																											

【実践の効果】

今回の実践では最初に問いを出し解決していく形をとった。問いの解決では個人で考える時間、グループの中で意見を発表する時間、お互いの意見から練り上げる時間、全体で課題の解決を通して結論を出し、結論が新たな数学的概念となる。考えたり意見を述べたりする時は、数値(今回は確率、期待値)に着目して論理的に述べてもらうことで見方・考え方の定着を目指した。「自分と違う意見を取り入れたり自分の意見を分かりやすく説明するために自分の頭の中でも意見を分かりやすくまとめる必要があるので理解度が深まった」のような生徒の感想と、終末課題の書きぶりに生徒の思考の深まりが表れていた。以上のことからパフォーマンス課題を取り入れた単元計画の策定は生徒の思考力・判断力・表現力の育成に効果的であったと考える。

教科・科目名	理科「物理基礎」	学年	第2学年
科目の目標 (2)	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。		
単元名	「第IV章 電気」		
単元の目標 (2)	電気について、観察実験などを通して探究し、電気における規則性や関係性を見いだして表現する。		
単元の評価規準	観点	生徒の姿	主な評価方法・材料
	【知】	電気を日常生活や社会と関連付けながら、物質と電気抵抗、電気の利用についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	ワークシート ペーパーテスト
	【思】	電気について、観察実験などを通して探究し、電気における規則性や関係性を見いだして表現している。	ワークシート ペーパーテスト パフォーマンス課題
	【態】	電気に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	ワークシート パフォーマンス課題
本単元における「パフォーマンス課題」			
「パフォーマンス課題」	近年の災害やSDGs等を踏まえ、身近な材料等を使い、どのような発電方法があるかを考える		
本質的な問い	「電気」は日常生活ではどのように利用されているのだろうか？		
6要素	① 目的	防災やSDGs等の観点から発電の原理を知り、身近な材料で発電をする。	
	② 役割	防災士	
	③ 相手	災害発生の停電による被災者	
	④ 状況	災害時に、どのような発電方法があるか、またどれくらいの電力が得られるのかを調べる。	
	⑤ 作品	身近な材料を使った発電方法を調べ、実験レポート	
	⑥ 評価	【思】を評価基準（ルーブリック）で評価	

## 【指導と評価の計画】

時	学習内容等	重点	記録	備考・評価方法	見方・考え方
1	第IV 電気 第1節 電荷と電流 ①電荷 ・静電気の基本的な要素について理解し、日常生活との関わりを考える。	知	○	・物体が帯電するしくみを説明することができる。【WS】	見:質的・実態的 考:条件制御
2	②電流と電気抵抗 ・電流の伝わり方を理解し、オームの法則との関連を理解する。	知	○	・オームの法則を用いて、電流、電圧、抵抗のそれぞれの量を求めることができる。【WS】	見:量的・関係的 考:関係付け
3	③物質と抵抗率 ・物質の長さや断面積によって抵抗が異なることや、物質によって異なる抵抗率、また身の回りの利用方法について理解する。	知		・長さや太さの異なる物質の抵抗を測定し、長さ、太さにどのような関係があるかを考察する。【WS】	見:量的・関係的 考:条件制御 多面的
4	④抵抗の接続 ・抵抗の直列接続と並列接続の違いを理解し、合成抵抗を求めることができる。	態	○	・直列接続、並列接続における合成抵抗を計算することができる。【WS】	見:量的・関係的 考:条件制御・比較
5	⑤電力量と電力 ・電力量と電力の違いについて理解し、電気機器	思	○	・消費電力と使用時間から電力量、また電気料金を計算すること	見:質的・実態的 考:関係付け

	によって電気料金が違うことを理解する。			ができる。【WS】	
6	第2節 電流と磁場 ①磁場 ・磁場と磁力線について理解し、電流と磁場との関係を理解することができる。	知		・理想気体と実在気体の違いについて理解している。	見:質的・実態的 考:比較・多面的
7	②モーターと発電機 【パフォーマンス課題①】 ・クリップモーターを製作し、電流が磁場から受ける力について理解し、身近なモーターの仕組みを表現する。	思 態	○	・電流が磁場から受ける力より、モーターの原理を表現している。 ・モーターや電磁誘導等の実験に意欲的に取り組んでいる。【WS】	見:量的・関係的 考:条件制御
8	③交流の発生と利用 ・直流と交流の違いを知り、交流の性質を踏まえ、変圧器や送電について理解する。	知		・家庭での電気の使用と関連させて、交流の特徴や送電について考えている。【WS・行動分析】	見:質的・実態的 考:関係付け
9	④電磁波 ・直流と交流との違いを理解し、発電所からの電気が交流によって送電されている意味を理解する。	思	○	・電磁波にはさまざまな種類のあることを知り、利用例を理解する。 【WSと振り返りの記述分析】	見:量的・関係的 考:比較・多面的
10	【パフォーマンス課題②】 近年の災害 SDGs 等を踏まえ、身近なもの等を使い、どのような発電方法があるかを考える	思 態	○	・電磁波のさまざまな利用例と関連させ、意欲的に学習している。 【WSと振り返りの記述分析】 【行動観察】	見:量的・関係的 考:多面的

【授業の実際】

(第7時)パフォーマンス課題① クリップモーターの製作を通し、身近なモーターの仕組みを表現する。

パフォーマンス課題①において、身近な材料を用いてモーターを製作することで、モーターは発電機にもなることやその原理を学ぶ。また、課題を「身近に利用されているモーターやその性能を写真等で記録し、Teams で共有する。」として次のパフォーマンス課題へと発展させる。パフォーマンス課題②において、身近な道具や材料等より、どのような発電方法があるか、またどれだけの電力を得られるかを探究する。

○ワークシートの評価規準 (【思考・判断・表現】または【主体的に学習に取り組む態度】のいずれかで評価)

【思考・判断・表現】で評価する場合

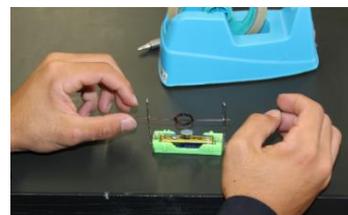
評価	A	B	C
評価基準	コイルが回転するには、Bに加え、フレミングの左手の法則や整流子等の原理を用いて表現している。	コイルが回転するために、コイルの片方はエナメル線の皮膜を全部削り、他方は半分削ることを表現している。	Bを満たしていない

【主体的に学習に取り組む態度】で評価する場合 (製作したコイルが回るためには、何度も調整が必要となる)

評価	A	B	C
評価基準	コイルが回転し続ける、また高速で回転するための工夫や粘り強く調整をしたか等、探究しようとしている。	コイルが回転するための工夫や粘り強く調整をしたか等、探究しようとしている。	Bを満たしていない

【実践の効果】

ここでは、パフォーマンス課題②に向けての事前の実験であった。もの作り(モーターの製作)は、生徒全員が製作に取り組んだ。生徒の中に、よく回転するモーターができると、どのような工夫がされているか、話し合いや試行錯誤し、自らの作品に生かそうとする様子が見られた。グループ討議では、モーターの回る原理から、更に回転力を高めるにはどのような工夫があるのかなど発展的な活動へとつながった。以上より、パフォーマンス課題を取り入れた単元計画の策定は思考力・判断力・表現力の育成に効果的であったと考えられる。



教科・科目名		理科「化学」	学年	第2学年
科目の目標 (2)		観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を養う。		
単元名		(1)物質の状態と平衡 (ア)物質の状態とその変化 ④気体の性質		
単 元 の 評 価 規 準	観点	生徒の姿		主な評価方法・材料
	【知】	気体の性質について, 基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		ペーパーテスト
	【思】	気体の性質について, 観察, 実験などを通して探究し, 気体の性質における規則性や関係性を見いだして表現している。		「パフォーマンス課題」 ワークシート ペーパーテスト
	【態】	気体の性質に主体的に関わり, 見通しをもったり振り返ったりするなど, 科学的に探究しようとしている。		振り返りシート
本単元における「パフォーマンス課題」				
「パフォーマンス課題」		有害物質を特定するための化学分析の研究者となり, ある工場で漏れ出した有害な揮発性有機溶媒を特定しよう。ただし, 漏れ出した有機溶媒はヘキサン, エタノール, ジエチルエーテル, トルエンのいずれかであることはわかっている。		
本質的な問い		気体の性質を利用すると, どのような有用性や利便性があるのだろうか。		
6 要 素	① 目的	工場で漏れ出した, 有害な揮発性有機溶媒を特定する。		
	② 役割	有害物質を特定するための化学分析の研究者		
	③ 相手	工場長		
	④ 状況	有害物質を特定するための化学分析の研究		
	⑤ 作品	工場で漏れ出した不明な有機溶媒の分子量を調べ, その実験結果からの考察		
	⑥ 評価	【思】を評価基準(ルーブリック)で評価		

## 【指導と評価の計画】

時	学習内容等	重点	記録	備考・評価方法	見方・考え方
1	ボイルの法則 ・実験を通して, 気体の体積と圧力の関係を見いだして表現する。	思		・気体の体積と圧力の測定実験を通して, その関係性を見いだして表現している。【WS】	見:量的・関係的 考:条件制御・ 関係付け・多面的
2	シャルルの法則 ・実験を通して, 気体の体積と温度の関係を見いだして表現する。	思		・気体の体積と温度の測定実験を通して, その関係性を見いだして表現している。【WS】	見:量的・関係的 考:条件制御・ 関係付け・多面的
3	気体の状態方程式 ・気体の状態方程式について理解する。	知	○	・気体の状態方程式について理解している。【WS】	見:量的・関係的 考:条件制御
4	混合気体① ・混合気体の全圧と分圧の関係について理解する。	知		・混合気体の全圧と分圧の関係について理解している。	見:量的・関係的 考:条件制御
5	混合気体② ・空気の平均分子量を測定し, 理論値と比較することで, 平均分子量について理解する。 ・水上置換で捕集した気体の分圧について理解する。	知	○	・平均分子量について理解している。 ・水上置換で捕集した気体の分圧について理解している。【WS】	見:実態的 考:条件制御・比較 関係付け
6	理想気体と実在気体 ・理想気体と実在気体の違いについて理解する。	知		・理想気体と実在気体の違いについて理解している。	見:質的・実態的 考:条件制御・比較
7	パフォーマンス課題① ・工場で漏れ出した無色透明な有機溶媒液体が何	思		・与えられた無色透明な有機溶媒が何であるか仮説を立てている。	見:質的・実態的 考:比較・条件制御

	であるか見た目から仮説を立てる。 ・気体の性質を利用して、無色透明な液体を特定するための検証計画を立案する。		・気体の性質を活用して、気体の分子量を求める実験の検証計画を立案している。【WS】	関係付け・多面的
8	パフォーマンス課題② ・立案した検証実験を行い、結果を処理する	知	・検証実験を行い結果を処理している。【WS・行動分析】	見:質的・実態的 考:条件制御・比較
9	パフォーマンス課題③ ・検証実験を通して、気体の分子量から無色透明な液体が何であるかを見い出して表現する。 ・前時の内容を振り返り、気体の性質を利用することの有用性に気づき、生活や社会とつなげようとする。	思 態	○ ・検証計画を通して、気体の分子量から無色透明な液体が何であるかを見い出して表現している。 ・単元を貫く問いを通して、単元の内容を生活や社会とつなげようとしている。【WS、振り返りシート】	見:質的・実態的 考:比較・関係付け ・多面的

【授業の実際】

パフォーマンス課題

① (第7時) 工場で漏れ出した無色透明な有機溶媒が何であるか仮説を設定→検証計画を立案→検証計画を共有



仮説の設定、検証計画の立案をグループ単位で話し合う。





各グループの考えを共有

② (第8時) 検証実験を行う→結果を処理する。



協働して実験の準備



試験管内部の液体が蒸発してきた。



冷却後の試験管の質量を測定

③ (第9時) 各グループの実験結果を共有し、無色透明な液体が何であるかを見い出して表現する。→単元の振り返り



各グループの結果を共有



結果から考察



教師はファシリテーター

【実践の効果】

パフォーマンス課題の考察から、多くの生徒が「理科の見方・考え方」を働かせた説得力のある考察になっていた。【思考・判断・表現】の観点で記録に残す評価とした考察の記述については、A評価：56.7%、B評価：35.1%、C評価：8.1%であり、B評価以上が92%を占めた。また、アンケートより「パフォーマンス課題は学習の理解に役立ちましたか」の質問で約95%の生徒が肯定的な回答を示した。以上のことから、「理科の見方・考え方」を意識して働かせる場面とパフォーマンス課題を取り入れた単元計画デザインは生徒の思考力・判断力・表現力の育成に効果的であった可能性があると言える。

教科・科目名		理科「生物基礎」	学年	第1学年
科目の目標 (2)		生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。		
単元名		(2) ヒトの体の調節 イ 体内環境の維持のしくみについて		
単元の目標 (2)		ヒトの体の調節についての観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現することができる。		
単元の評価規準	観点	生徒の姿		主な評価方法・材料
	【知】	ヒトの体の調節について、情報の伝達、体内環境の維持のしくみの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。		ワークシート ペーパーテスト
	【思】	ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節の特徴を見いだして表現している。		パフォーマンス課題 ワークシート
	【態】	ヒトの体の調節に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		パフォーマンス課題 振り返りシート
本単元における「パフォーマンス課題」				
「パフォーマンス課題」	ヒトの体の調節について、A：「体温が上がったら?」、B：「体温が下がったら?」、C：「血糖値が上がったら?」、D：「血糖値が下がったら?」、E：「水分が不足すると?」、A～Eの5つのテーマから1つを選択してパフォーマンス課題のシナリオを考える。そのシナリオに基づいて作品を作成して、発表会を行う。			
本質的な問い	さまざまな環境に対応するために、ヒトの体にはどのような機能が備わっているのだろうか。			
生徒が作成したパフォーマンス課題のシナリオ				
体を動かしたときや、先生に急に指名され精神的揺らぎを感じたときに体温が上がるのを感じられました。この体温が上がったとき、上がるまでの過程をクラスの生徒に納得してもらえるように図やイラストを使って説明する。				
6要素	① 目的	体温が上がったときの変化（上がるまでの過程）を説明する		
	② 役割	説明する生徒自身		
	③ 相手	クラスの生徒（高校生）		
	④ 状況	体を動かしたときや先生に急に指名されたときなど精神的揺らぎを感じたとき		
	⑤ 作品	Power pointのスライド		
	⑥ 評価	図やイラストを使い相手が理解できるように		

【単元計画】

時間	学習内容等	重点	記録	備考・評価方法
1	体内での情報伝達	態		・体内での情報伝達について、課題を見出して意欲的に探究しようとしている。
2	神経系による情報の伝達と調節	知		・神経系による情報伝達と調節のしくみについて理解している。
3	内分泌系による情報の伝達と調節	知		・内分泌系による情報の伝達と調節についてのしくみについて理解している。
4	ホルモンの分泌と作用 ホルモン分泌量の調節	知		・ホルモンの種類とそのはたらき、分泌量の調節について理解している。

5	体内環境の維持のしくみ① ・パフォーマンス課題シナリオ作成	思 態		・5つのテーマから課題を選び、6つの要素を考える。(ペアワーク)
6	体内環境の維持のしくみ② ・パフォーマンス課題作品取り組み	思 態	○	・パフォーマンス課題に取り組み、効果的な発表方法を検討する。(ペアワーク)
7	体内環境の維持のしくみ③ ・パフォーマンス課題グループ内発表	思 態	○	・完成した作品をグループで発表する。 ・発表を聞き、良い点や改善点を発表評価表に記入して考察する。
8	体内環境の維持のしくみ④ ・パフォーマンス課題全体発表	思 態		・代表チームの発表を聞き、体内環境維持のしくみについて理解を深める。
9	体内環境の維持のしくみまとめ	知		・血糖値の調節、体温調節、水分調節についてまとめ、振り返りを行う。
10	からだを守るしくみ 自然免疫	知		・細菌やウイルスなどの抗原からからだを守るしくみについて理解する。
11	適応免疫 免疫と健康	知 思	○	・適応免疫、ワクチンなど免疫の利用、アレルギーや AIDS 等、免疫に関する疾患についての理解を深める。

【パフォーマンス課題の実際】

1. シナリオ作成 (6つの要素を考え、要素を盛り込んだシナリオを各ペアで考える)

**まずは、6つの要素を考えよう!**

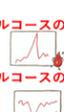
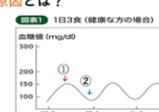
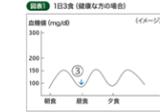
**G(目的)** → 体温が上がったら?  
**R(役割)** → 発表者  
**A(相手)** → クラスのみんな  
**S(状況)** → 部活している熱中症になった  
**P(作品)** → 「体温が上がったらどうなるかの説明  
**S(観点)** → みんながわかれば成功

**6つの要素を盛り込んだパフォーマンス課題を記入しましょう。**

部活をしていたら熱中症になりました。  
この時、体の変化をクラスみんなにわかりやすく、107-ポイントを使って発表します。

考案タイトル「空腹時に運動するとまめいがるのはなぜ？」  
「体温が下がると、なぜ身震いするのだろうか」

2. 作品の作成 (スライド作成)      3. グループ内発表      4. クラス全体発表

<p><b>食後に強い眠気を感じるのはなぜだろうか</b></p> <p>1年3組 ○番 ○○ ○○○ 1年3組 ○番 ○○ ○○</p>	<p><b>自然事象の気づき</b></p> <p>お昼ご飯を食べた後、授業中に眠気を感じたがしばらくすると眠気を感じなくなりました。</p> 	<p><b>課題の設定</b></p> <p>食事をすると、なぜ眠気を感じるのだろうか</p> 	<p><b>仮説の設定</b></p> <p>食事をすると、食べ物に含まれている糖質が、体内に入り、糖が一時的に増加するから、眠気を感じる。</p> 	<p><b>課題の探求</b></p> <p>・食事をした後の血糖値の変化について調べてみた</p> <p>その前に血糖値とは何か</p> 
<p><b>血糖値とは、血液中のグルコースの濃度のこと</b></p> <p>言い換えると... 血糖値が上がった→グルコースの濃度が高くなった 血糖値が下がった→グルコースの濃度が低くなった</p> 	<p><b>食事をしたあと</b></p> <p>①食べ物の糖が血液中に入っていく 食後は血糖値が上昇 ②徐々に糖が分解され、各所に吸収される しばらくすると血糖値が低下 【インスリンが急激に増加】 ③血糖値が通常に戻る どんな原因で、上昇するの??</p> 	<p><b>原因とは?</b></p> <p>①食事によって血糖値が上昇 ②血糖値を下げるためにインスリンが分泌される</p> 	<p><b>1日3食(健康な方の場合)</b></p> <p>③インスリンによって血糖値が低下 血糖値が急降下すると、脳に供給されるブドウ糖が不足 → 眠気やだるさを感じる 血糖値の急激な変化 → 「血糖値スパイク」</p> 	<p><b>結論</b></p> <p>・食事をすると、血糖値が上昇する。そのため、<b>すい臓が大量にインスリンを分泌し、血糖値が急激に低下してしまう。この急激に低下することで眠気を感じてしまう。</b></p> 

【実践の効果】

事後アンケートから9割以上の生徒が「パフォーマンス課題」及びペアやグループでの話し合い活動等「協働的な学び」が学習の理解に役立ったと回答している。また、他のグループの発表を聞くことで、テーマは同じでも掘り下げる部分が違っていてそこから新しい学びにつながったとの意見もあった。さらに、どうすれば相手に分かりやすく伝えられるかを考えて工夫し、試行錯誤している様子も見られた。実生活とのつながりを感じ、学習内容を今後の生活に役立てたいとの感想もあった。以上のことから、パフォーマンス課題を取り入れた単元計画の策定は生徒の思考力・判断力・表現力の育成に効果的であったと考えられる。

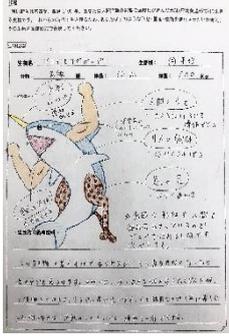
教科・科目名		理科「地学基礎」	学年	第2学年
科目の目標 (2)		観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を養う。		
単元名		第3部 移り変わる地球 第2章 地球と生命の進化		
単元 の 評 価 規 準	観点	生徒の姿		主な評価方法・材料
	【知】	移り変わる地球について、宇宙、太陽系と地球の誕生、古生物の変遷と地球環境を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。		ワークシート ペーパーテスト
	【思】	移り変わる地球について、観察、実験などを通して探究し、宇宙、太陽系と地球の誕生、古生物の変遷と地球環境における規則性や関係性を見いだして表現している。		パフォーマンス課題
	【態】	移り変わる地球に関する事象・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとするとともに、自然環境の保全に寄与しようとしている。		パフォーマンス課題 ワークシート
本単元における「パフォーマンス課題」				
「パフォーマンス課題」		地球温暖化が進む環境下で生き残るための架空の生物を考案する。		
本質的な問い		太陽系や地球はどのように誕生し、現在の姿になったのだろうか。そして、地球に生命が存在するのはなぜだろうか。		
6 要 素	① 目的	太陽系の中で特別な存在である地球について理解している。		
	② 役割	架空の生物を考案する研究員		
	③ 相手	他の研究員		
	④ 状況	地球温暖化の環境下で生き残るための戦略計画		
	⑤ 作品	スライドやイラストを用いて他の研究員へ説明する。		
	⑥ 評価	【思】を評価基準(ルーブリック)で評価		

【単元計画】

時間	学習内容等	重点	記録	備考・評価方法
1	事前アンケート 化石が教えてくれること ・示準化石、示相化石	知	○	・化石について理解し、知識を身に付けている。(知)
2	地質時代 ・絶対年代、相対年代、半減期 ・5回の大量絶滅	思		・半減期について理解している。(知) ・地球の酸素と二酸化炭素濃度のグラフから、生物の進化や絶滅と環境の変化との関連について考察することができる。(思)
3	地球の歴史(プレゼン準備①) ・先カンブリア時代、古生代・中生代、新生代の地球環境と生物の変遷を学習し、大気の変化が地球環境や生命活動へ与えた影響を理解する。	知		・地球環境の変化と生物の変遷が相互的に影響し合う関係を理解している。(知) ・プレゼン担当する時代を決める。
4	地球の歴史(プレゼン準備②) ・前時に続き各地質時代について理解している。	知		・プレゼン担当する時代について、各グループで学習する。
5	地球の歴史(プレゼン発表) ・各地質時代の地球環境と生物の変遷や、人類の出現やその進化について理解している。	態	○	・地球環境と生物の変遷に関心を持ち、環境変化と生物の進化や絶滅との関連について考察し、課題や疑問を見いだし

				て、意欲的に探究しようとしている。 (態) ・他のグループの発表を聞いて、記録用紙に記入する。
6	地層の対比① ・沖縄本島南部の地層の重なり(層序)を理解している。	知		・過去の沖縄本島の誕生過程や、地殻変動について理解し、知識として身に付けている。(知)
7	地層の対比② ・沖縄本島南部の地層の重なり(層序)を理解している。	態		・数学で学習した tan の知識等も取り入れて、過去の沖縄本島の地殻変動や層構造などについて理解を深めようとしている。(態)
8	パフォーマンス課題	思	○	・各個人の発表をポスター形式で行う。
9	パフォーマンス課題 事後アンケート	思	○	・各個人の発表後、生き残りそうな順にランキングを決める。

【授業の実際】

第5時	
指導の留意点	第1時から第4時までは、地質時代について中学校での既習事項から復習し、本単元に興味をもたせるように展開する。地球の歴史について各グループで発表する前に、プレゼン準備時間として2時間授業時間を確保する。
パフォーマンス課題①	あなたは「地球46億年の歴史博物館」の学芸員です。この度、修学旅行で博物館を訪れる高校生を対象に地球の歴史について説明することになりました。同部署のメンバーと協力し、それぞれの時代の特徴(環境、出来事、どのような生物が生息していたのか)について、興味をもってもらえるようなプレゼンを持ち時間3分で行ってください。
学芸員役の発表者側は、1グループ3名~4名で構成し、発表の持ち時間を3分程度とする。	修学旅行生役の聞き手側は、分かったことやおもしろいと思ったことをワークシートにメモを取る。
第8時~第9時	
指導の留意点	前時までに、地質時代についてグループ発表を終え、地層の対比「沖縄本島南部の地層の重なり(層序)」を学習してきた。生徒の学校周辺地域ということもあり、興味・関心は高まっている。将来、自分たちがまだ生存しているであろう2100年という未来に対して、地球の歴史を予想しながら、論理的に説明できるように準備させる。
パフォーマンス課題②	時は新生代第四紀、西暦2100年。あなたは人間活動の影響で温暖化が進んだ地球(平均気温+5℃)に生きる生物です。これからの時代で生き残るため、あなたはどのような形態・器官・機能を進化させたいか考え、その生物を図鑑形式で表現してください。
 <p>生息域は・・・</p>	 <p>○○という特長を持っているので・・・</p>
 <p>図鑑例①</p>	 <p>図鑑例②</p>

【実践の効果】

「今回の授業を受けて、この科目に関する学習を自主的に行う意欲が出ましたか？」等の事後アンケートでは、どの問いにも7割以上の生徒が肯定的な回答であった。実際の生徒の取組状況からも一人で考えたり、グループで話し合い考えをまとめたり、問題解決に主体的に取り組んでいる様子が見られた。理科の見方・考え方を意識して取り組んだパフォーマンス課題についても、自主的に調べることができ、分からないことも積極的に知りたいという意欲が湧いてきたとする感想も見られた。以上のことから、パフォーマンス課題を取り入れた単元計画の策定は生徒の思考力・判断力・表現力の育成に効果的であった。

教科・科目名		体育	学年	第3学年
科目の目標 (2)		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		
単元名		E 球技 ア ゴール型 「バスケットボール」		
単元 の 評 価 規 準	観点	生徒の姿		主な評価方法・材料
	【知】	①課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、言ったり書いたりしている。 ②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ③防御をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶことができる。		学習カード スキルテスト
	【思】	①選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 ②球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。		学習カード ワークシート 観察 パフォーマンス課題
	【態】	①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。		観察 学習カード
本単元における「パフォーマンス課題」				
「パフォーマンス課題」		「球陽杯を開催しよう！」 バスケットボール大会を盛り上げるために、自己に適した関わり方を考え、大会を企画・運営しよう。		
本質的な問い		スポーツに対して、自己に適した関わり方にはどのようなものがあるだろうか？		
6 要 素	① 目的	スポーツに対する多様な関わり方を理解し、自己に適した関わり方を見付ける		
	② 役割	選手、大会運営		
	③ 相手	大会全般		
	④ 状況	各チームでリーグ戦と運営を行う		
	⑤ 作品	ワークシート、大会での役割		
	⑥ 評価	【思】【態】を評価基準（ルーブリック）で評価		

【指導と評価の計画】

時	学習内容等	評価観点	評価方法
1	・オリエンテーション ルールの確認、道具の管理、グループ分けなど		
2	・基本的なボール操作の練習（パス・ドリブル・シュート）	【知】①	学習カード
3	・スキルテストの確認（ドリブル・ゴール下シュート）		
4	・基本的なボール操作の練習（パス・ドリブル・シュート）	【思】①	学習カード
5	・アウトナンバー（2対1、3対1）		
6	・スキルテスト（ジグザグドリブル、ゴール下シュート）	【知】③	スキルテスト
7	・球陽杯の企画をする（体育の見方・考え方）	【思】②	ワークシート
8	・ルールや審判の方法、役割分担について再度確認する	【知】②	学習カード
	・各グループで試合に向けた作戦会議を行う	【態】②	観察
9	・球陽杯を運営する	【態】①	観察
10	・役割を果たしリーグ戦を楽しむ		

【授業の実際】

<p>1. 課題解決のための話し合い</p> 	<p>2. 技能のルーブリック</p> 	<p>3. スポーツの関わり方について</p> 
<p>チームや自己の課題やその解決方法について、チームで話し合う。</p>	<p>ルーブリックを事前に提示することで、主体的な練習になる。</p>	<p>大会の企画にあたり、スポーツに対する関わり方について学ぶ。</p>
<p>4. グループで意見交換</p> 	<p>5. 考えたことの共有</p> 	<p>6. 球陽杯の企画運営①</p> 
<p>バスケットの関わり方について、個人とチームで考える。</p>	<p>チームのワークシートを基に、全体で意見の共有を行う。</p>	<p>試合の進行や記録を、試合のないチームが担当する。</p>
<p>7. 球陽杯の企画運営②</p> 	<p>8. 球陽杯の企画運営③</p> 	<p>9. 球陽杯の企画運営④</p> 
<p>練習で使ったボールを片付ける担当も配置する。</p>	<p>主審、副審、得点、ライン係、応援など、全員が大会に関わる。</p>	<p>対戦表などは授業外の時間に自主的に作成した。</p>

【実践の効果】

本単元では、前半に知識・技能を習得し、後半に大会を企画運営する授業をデザインした。大会を企画するに当たり、パフォーマンス課題を通してスポーツに対する多様な関わり方を理解する時間を設定した。

その結果、バスケットボールの関わり方について、「スポーツは、プレイするだけでなく『見る』『支える』などの関わり方があることを知り、もっと気軽にスポーツに関わっていきたいと思った」、「スポーツを『する』『見る』『支える』『知る』の四軸で捉えると、スポーツを最大限楽しめる」といった、スポーツに対する多様な関わりに関連する記述が多く見られた。チームのワークシートの記述からは、「する」49%、「みる」18%、「支える」28%、「知る」6%と、「する」ことの多い10代でも、「する」以外の関わりについての意見も半数見られた。実際に大会を運営する場面では、自己に適した役割を設定し「支える」関わりを実践していた。ルーブリックを用いた評価では、ほとんどの生徒がB評価以上であった。

事後アンケートの「パフォーマンス課題が学習の理解に役立ったか」の項目では、9割以上が肯定的な回答であった。パフォーマンス課題を用いたことで、体育の見方・考え方を働かせ、スポーツに対する多様な関わり方について、より思考を深め、実践していた。

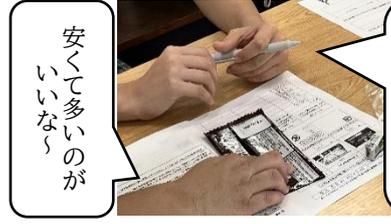
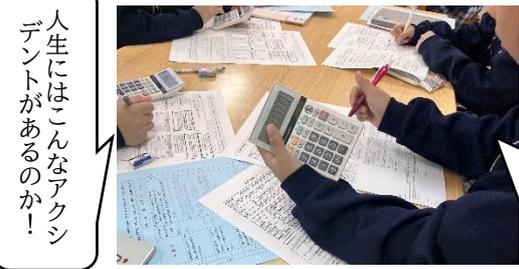
以上のことから、パフォーマンス課題を取り入れた単元計画の策定は、生徒の思考力・判断力・表現力の育成に効果的であったと考えられる。

教科・科目名		家庭総合	学年	第2学年
科目の目標 (2)		家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。		
単元名		経済生活をつくる		
単元 の 評価 規 準	観点	生徒の姿		主な評価方法・材料
	【知】	家計の構造や生活における経済と社会の関わり、生涯を見通した経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解している。消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。		ワークシート ペーパーテスト
	【思】	生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。		ワークシート パフォーマンス課題
	【態】	(割愛) *Web 参照		ワークシート 振り返りシート
本単元における「パフォーマンス課題」				
「パフォーマンス課題」	家計管理アドバイザーとして、仮想家族に対し、収入・支出、貯蓄、リスク管理、ライフプランに基づく家計管理プランを提案しよう！			
本質的な問い	自立した経済生活を営むために身に付けないといけないことは何ですか？			
6 要 素	① 目的	収入・支出、貯蓄、リスク管理、ライフプランに基づく家計管理プランを提案することで、生涯を見通した経済生活における課題を解決する力を身に付ける。		
	② 役割	家族の状況に応じたアドバイスができる家計管理アドバイザー		
	③ 相手	高校生の子供のいる家族		
	④ 状況	人生のリスクが降りかかった家族へのアドバイス		
	⑤ 作品	家計管理プラン		
	⑥ 評価	【思】評価基準(ルーブリック)で評価		

## 【指導と評価の計画】

時	学習内容等	重点	記録	評価方法・備考	見方・考え方
1 ・ 2	【収入と支出】 ・求人票や給与明細の見方を知り、収入の範囲内で家計管理することの大切さを考える。	思		・お金の使い方に課題を見だし、収入と支出のバランスのとれた家計管理を考えようとしている。	協力・協働
3 ・ 4	【家計と経済の関係】 ・国民経済の中の家計役割を理解する。 ・リスクへの備えと対応策としての社会保障制度を調べる。	知	○	・生活における経済と社会との関わりについて理解している。 ・リスクへの備えとしての貯蓄や保険、社会保障制度の活用について考えている。	協力・協働
5 ・ 6	【契約の重要性とクレジットカード】 ・契約と消費者保護制度について理解する。 ・クレジットカードの適切な使い方を理解する。	知	○	・契約の重要性や消費者を保護している法律について理解している。 ・クレジットカードの適切な使用方法について考えている。	健康・快適 安全
7 ・ 8	【消費者の権利と責任】 ・消費生活の現状と課題を理解し、生活情報を活用した意思決定としてチョコレートの購入を考える。	思		・生活情報を読み取り、消費行動における意思決定について具体的に考えている。	持続可能な社会の構築
9 ・ 10	【家計管理プランを提案しよう】パフォーマンス課題 ・家計管理アドバイザーになって、収入・支出、貯蓄、リスク管理、ライフプランに基づく家計管理プランを提案する。	思	○	・家族の家計の状況、目標、価値観やアクシデントに応じた家計管理プランについて考えている。	協力・協働

【授業の実際】

第1・2時	<p>求人票や給与明細の情報を読み取り、収入の範囲内でバランスよく家計管理することを考える。</p>  <p>一ヶ月の手取りってこれくらいなんだ!!</p> <p>貯金はどれくらいできるかな?</p>	第7・8時	<p>身近な商品（チョコレート）の表示を比較して、消費者の権利と責任両面から商品選びを考える。</p>  <p>安くて多いのがいいな</p> <p>フェアトレードのチョコを選んで消費者の責任を果たしたいな</p>
第9・10時	<p>アクシデントに応じた家計管理プランを考える。【パフォーマンス課題】</p>  <p>人生にはこんなアクシデントがあるのか!</p> <p>老後資金を貯めるために毎年の旅行は諦めよう</p>		

アクシデントカードの一部

<p>①母の収入減少 年間支出を380万円以下にする</p>  <p>必要貯蓄額 220万円/年</p> <p>母がパートを辞めてマルチ商法に夢中になってしまい世帯年収が500万円になる</p>	<p>③大学費用の増加 年間支出を420万円以下にする</p>  <p>必要貯蓄額 180万円/年</p> <p>県外私立大学進学のための教育ローン返済(1000万円/4年)</p>
---	--

【パフォーマンス課題の実際】

<p><b>パフォーマンス課題</b> 家計管理アドバイザーとして、仮想家族に対し、収入・支出、貯蓄、リスク管理、ライフプランに基づく家計管理プランを提案しよう!</p>	<p><b>【家族構成】</b> 父(45歳) 会社員 年収：500万円 母(45歳) パートタイム(週4日、6時間勤務) 年収：100万円 娘(15歳) 高校1年生 習い事(塾・ピアノ)</p>
---	--

ライフプラン1：3年後、娘が大学進学予定で4年間の学費240万円の貯蓄が目標

ミッション①：娘の大学費用の準備をしよう。

年間100万円以上の貯蓄が必要。家族全員が納得できるよう支出項目を調整し家計管理を提案しよう。

ライフプラン2：老後の生活資金として退職金とは別に65歳までに2000万円の貯蓄が目標

ミッション②：アクシデントに対応し、老後資金を準備しよう。

家族にアクシデントが発生し、年収が減少(または支出増大)。老後資金のための貯蓄を継続しながら家族全員が納得できるよう支出項目を調整し、家計管理を提案しよう。

【実践の効果】

本実践は収入や支出の実際や契約、社会保障制度、消費者の権利と責任などを理解するための過程に共同的な活動を取り入れながら取り組んだ。また、「家計管理アドバイザー」という役割を設定し、アクシデントカードを用いてより詳細な場面設定を取り入れることで、家族の生活で大事にしたいことや支出の見直しについて粘り強く考えている記述に着目した。以下に評価基準とその例を示す。

「パフォーマンス課題」(ミッション②)に対する【思】の評価基準	
A	家族が生活の中で大事にしたい項目を具体的に考え、アクシデントに対応した家計管理プランを提案している。
B	アクシデントに対応した家計管理プランを提案している。
C	Bを満たしていない。
評価Aの例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の生活はあまり変えずに貯蓄を増やせるようにした。家族旅行には行かないで、車は乗ればいいで軽自動車に替えた。</li> <li>・通信費や食費・家電・車を見直した。自分たちが我慢することでリフレッシュの旅行ができるようにした。</li> </ul>
評価Bの例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予備費はあまり使わないお金だから減らしてギリギリにする。旅行はしない。</li> <li>・車は必要だけ軽自動車に替えて交通費を減らして節約する。</li> </ul>

パフォーマンス課題に取り組む際には、模擬家族の家計の現状を把握し、ライフプランやアクシデントを踏まえて家族の生活の優先事項を考え、改善方法に生徒自身の価値観も反映させながら作成することができた。自分だけでは考えが広がらない時には他者の考えを聞くことで自分の考えを整理し、単元全体の学習も踏まえて考えを深めている様子も見られた。以上のことからパフォーマンス課題を取り入れた単元計画の策定は生徒の思考力・判断力・表現力の育成に効果的であったと考える。

教科・科目名		外国語（英語コミュニケーションⅠ）	学年	第1学年
科目の目標		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。		
単元名		Lesson 5 “Morita Yuko – Hospital Facility Dog Handler –”		
単元の評価規準	観点	生徒の姿		主な評価方法・材料
	【知】	【知識】本単元で紹介されている音声や語彙、表現、動名詞言語の働きなどについて理解を深めている。 【技能】本単元で紹介されている音声や語彙、表現、動名詞、言語の働きなどの知識を、「話すこと [発表]」の場面において適切に活用するための技能を身に付けている。		●職業カード ●単語カード ●Small Talk カード ●Forms ナレッジテスト ○定期考査
	【思】	「好きな人物の仕事内容について紹介する」ための情報や考えなどを整理し、読み手や聞き手に分かりやすく適切な表現を用いて伝えることができる。		●職業カルタ(職業カード) ●神経衰弱(単語カード) ●ブックレット(内容理解) ○発表用原稿 ○パフォーマンステスト
	【態】	紹介する人物や職業について理解を深め、読み手や聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に発表しようとしている。		●振り返り Form ○発表用原稿 1st, 2nd Drafts ○パフォーマンステスト
本単元における「パフォーマンス課題」				
「パフォーマンス課題」		「自分が好きな人物の仕事内容について紹介する」		
本質的な問い		What do you want to do/be in the future?		
6要素	① 目的	単元の題材となっている「森田優子さん」を通して、自らの職業観につなげる。		
	② 役割	発表者（プレゼンター）		
	③ 相手	クラスメート（グループ）及び授業担当		
	④ 状況	「話すこと [発表]」の場面で、自身の好きな人物の仕事内容について英語でプレゼンテーションを行う。		
	⑤ 作品	発表用原稿		
	⑥ 評価	採点の基準（ルーブリック）に基づき、3観点をバランス良く評価する。		

【指導と評価の計画】

評価方法：●指導に生かす評価 ○記録に残す評価

学習の領域（内容のまとめ）：「聞くこと」＝ **L**istening・「読むこと」＝ **R**eading・「話すこと [やり取り]」＝ **I**nteraction・「話すこと [発表]」＝ **P**roduction・「書くこと」＝ **W**riting

時間	目標（ぬらい）(■)・学習活動（丸数字）	学習の領域 (内容のまとめ)					評価の観点と評価方法
		L	R	I	P	W	
1	<p>■単元の全体像と見通しを立てよう ※事前アンケートの実施 <a href="https://forms.office.com/r/j73YXyYNZq">https://forms.office.com/r/j73YXyYNZq</a></p> <p>①単元目標及び、ルーブリックの確認。 「目指す生徒像」の提示。</p> <p>②Mentimeterを使った導入活動。 - <a href="#">Mentimeter Link</a> - 生徒端末で QR コードを読み込み、英語の質問に答える。問1、2はデモンストレーション問題。 全体でスクリーンに共有しながら、一緒に Lesson のトピックについて考える。</p> <p>③教科書 p55 の職業に関する言語活動 ア. 職業カルタ(Job Karuta)</p>		●	●	●	●	<p>※事前意識調査 Forms アンケートの実施</p> <p>●知① ●思③ Mentimeter スライド</p>  <p>●知① ●思③</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1st round with Teacher</li> <li>・ 2nd round in groups</li> </ul> ④まとめ・振り返り <a href="https://forms.office.com/r/MHNCyWTAfr">https://forms.office.com/r/MHNCyWTAfr</a>						Job Karuta カード ●態④ 振り返りアンケート
2	■レッスンに登場する語彙、表現を習得しよう ・ 単語カードを使用した帯活動 ①Word Ranking...Microsoft Forms ②Word Matching... Vocabulary Cards ③Word Chant...PowerPoint Slides ④Pelmanism...Cards (with Classroom English) ・ クラスルームイングリッシュの確認 ・ ルールの確認 (3枚揃って1ポイント) 青⇒英語、赤⇒日本語、緑⇒写真 ア. 青のカードを引き、発音をする。 イ. 赤のカードを引き、意味を探す。 ウ. 緑のカードは最初から表向きで配置し、写真を選択する。 ⑤まとめ・振り返り <a href="https://forms.office.com/r/MHNCyWTAfr">https://forms.office.com/r/MHNCyWTAfr</a>	●	●	●			●知① ●技② 新出単語カード PowerPoint スライド ●思③ 語彙確認 Form 神経衰弱 (単語カード) 青: 英語 赤: 日本語 緑: 写真 ●態④ 振り返りアンケート
3	■パート1の内容を理解しよう ①Small Talk...Conversation Card Talk ②Vocabulary Review...Power Point Slides ③Bookletを活用した内容理解 ④まとめ・振り返り <a href="https://forms.office.com/r/h7JQGUyxYf">https://forms.office.com/r/h7JQGUyxYf</a>		●	●		●	○知①② ○思③ ブックレット (ワークシート集) ●態④ 振り返りアンケート
4	■パート2の内容を理解しよう ①Small Talk...Conversation Card Talk ②Vocabulary Review...Power Point Slides ③Bookletを活用した内容理解 ④文法活動...動名詞 ⑤まとめ・振り返り <a href="https://forms.office.com/r/MrJSnpQCMY">https://forms.office.com/r/MrJSnpQCMY</a>		●	●		●	○知①② ○思③ ブックレット (ワークシート集) ●態④ 振り返りアンケート
5	■パフォーマンス課題に向けて準備をしよう ①Small Talk...Conversation Card Talk ②内容確認テスト...Microsoft Forms ※Knowledge Test ③Draft Writing...1 <sup>st</sup> , 2 <sup>nd</sup> Drafts ④グループ内練習 ※教師によるデモンストレーション① ⑤まとめ・振り返り <a href="https://forms.office.com/r/mMwTSJDbX4">https://forms.office.com/r/mMwTSJDbX4</a>	●	●	●	●	○	○思③ ○態④ ワークシート ○知① ○技② ●態④ 振り返りアンケート
6	■自分が好きな人物の仕事内容について紹介しよう ①グループ内発表練習 ※教師によるデモンストレーション② ②グループ内発表...相互評価 ③代表発表 ④まとめ・振り返り <a href="https://forms.office.com/r/i5MJ0sNXEc">https://forms.office.com/r/i5MJ0sNXEc</a>	●	●		○	○	○思③ ○態④ ワークシート 相互評価シート ●態④ 振り返りアンケート

【実践の効果】

パフォーマンス課題を先に設定し、「育成を目指す資質・能力」、「目指す生徒像」からのバックワードデザインで授業設計を行った結果から、生徒の多くが授業における自身の取組状況に満足する振り返りをしていることが分かった。毎時間の取組に関する自己評価の平均値は10段階で8.79となっており、今回の単元で最も印象に残っている取組で22名中12名の生徒がパフォーマンス課題に言及した回答をしている。尊敬する人物について調べ、紹介することで、英語のスピーキングスキルやリサーチ能力が向上するとともに、読み手、聞き手意識が芽生え、生徒自身の課題意識に訴える取組になったことが事後アンケートの内容からも見取ることができた。

以上のことから、パフォーマンス課題を取り入れた単元計画の策定は生徒の思考力・判断力・表現力の育成に効果的であった。

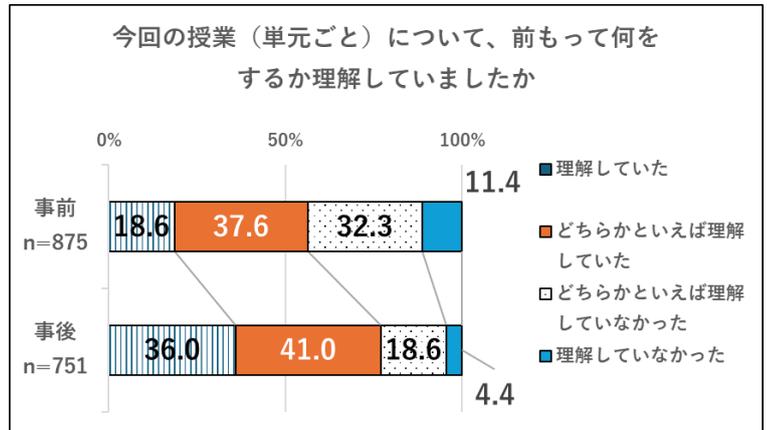
### Ⅲ まとめ

見方・考え方を意識して働かせ、パフォーマンス課題を取り入れた単元デザインが、生徒の資質・能力の育成につながったのかを、生徒と研究協力員の事後アンケート等から考察する。

#### 1 生徒の考察

##### (1) パフォーマンス課題を取り入れた単元デザインについて

今回の実践では単元等のはじめに単元の見通しと評価規準、パフォーマンス課題を掲示し、生徒にも見通しをもって取り組んでもらうこととした。アンケートからは8割弱の生徒が「前もって何をを行うか理解していた」と回答しており、事前アンケートから約20ポイントの改善であった(図2)。十分とは言えないものの取り組みの効果はあったと考える。次の表2は単元計画による成果と思われる生徒の記述である。



これらの記述から読み取れることは、生徒の頭の中に単元の流れが入っている。

表2 単元計画による学習効果と思われる生徒の記述

生徒 a: ゴールが明確になることで何をすれば良いのか何をしてるのかがちゃんと分かるようになるから
生徒 b: 実際に習ったことを総動員して相手がどのくらいなら買ってくれるのか考えることができたから
生徒 c: パフォーマンス課題をする上で、知識があることが大前提となるので積極的に学ぼうという意欲が出た。
生徒 d: パフォーマンス課題をどう解くかを考えて授業を受けたから、ぼーっと授業を受けるんじゃなくて、意識的に授業に取り組むことが出来た。
生徒 e: ただ知識を紹介されるよりも実際に考えて深めていくことでより覚えやすくなるから。また、そのような授業を受けてきたから。
生徒 f: 学習したことを1回整理してパフォーマンス課題を行ったので役にたったかなと思った。
生徒 g: まとめみたいな感じで、全部を関連させながら思考を回さないといけなかったから自然と復習ができていたのかなと感じた。

る、学習した1つ1つの事柄が道具として使える物になっている、ということである。表2に挙げた意見以外にも、「パフォーマンス課題は最初はとても難しく思えて、ほんとに自分はこの問いに答えられるだろうかと心配だったが授業を通していくうちにプランが出来上がって楽しかったので印象に残っています。」などの意見もあり、パフォーマンス課題を終末に置くことでより単元全体を1つのまとまりと見ることができ、思考を深めることができたのではないかと考える。今回の単元デザインでは特に思考力・判断力・表現力等の育成を狙っているが、全体での思考力・判断力・表現力等の評価は92%の生徒が概ね満足できるB評価以上であった(図3)。その中核を担ったのが単元の終末に位置付けたパフォーマンス課題である。パフォーマンス課題に取り組んだことのある生徒は事前アンケートでは半数弱であった。初めて取り組む生徒も多くいたが、事後アンケートではパフォーマンス課題は学習の理解に役立った、という生徒が96%いた(図4)。

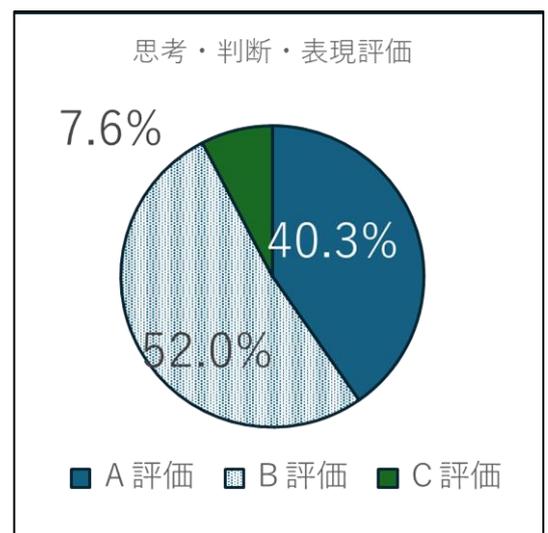


図3 全体の思、判、表の評価

以下の表3はパフォーマンス課題に関する生徒の記述である。この記述からは、しっかりと知識を身に付け、知識を用いて課題の解決に取り組んだり、自分の意見を明確にしたり、行動に移したりしている中で、思考したり、判断したり、表現したりしていることが分かる。パフォーマンス課題に取り組むことで知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の育成に寄与していることがうかがえる。以上より、パフォーマンス課題を取り入れた単元デザインは、生徒の学習の理解を助け、思考力・判断力・表現力の育成にも有効であると捉えることができる。

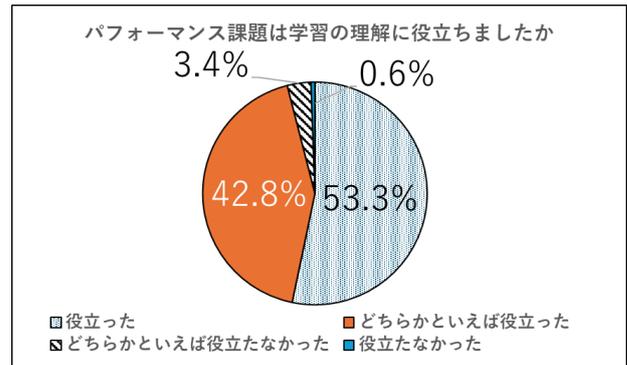


図4 パフォーマンス課題の有用感

表3 パフォーマンス課題に関する生徒の記述

生徒 a: 学習するだけでは受け身になってしまうけど、課題をすることで復習にもなるし応用的に考える事ができたから。  
 生徒 b: ただ学習するだけ板書するだけじゃなくて、ちゃんと自分の意見を明確にすることができたから。  
 生徒 c: この授業の「なぜ」を解決することができたため、しっかり役立ったと感じた。  
 生徒 d: 自分から分からない単語は調べたり文法が分からなかったら友達にネットに頼り役に立ちました。  
 生徒 e: お互いの利益を考えて目的に合った値段設定ができたから。  
 生徒 f: 実際に自分で考え紙に書き込むことでやり方も学べるしすごくいいと思った。  
 生徒 g: これまではただスポーツをしているだけだったが、どのような目的で楽しむのか、どうやったら楽しめるのかを考えながら行動することができたから。

(2) 協働的な学びの効果について

ペアやグループ活動といった協働的な学びについて、生徒は事前アンケートでも9割以上が肯定的で前向きだったが、今回の計画的・意図的に取り入れた単元デザインの中では、更に意欲的に取り組んでくれた(図5)。それだけではなく、約97%の生徒が学習の理解に役立ったと回答している(図6)。以下の表4は、その理由に関する生徒の記述である。

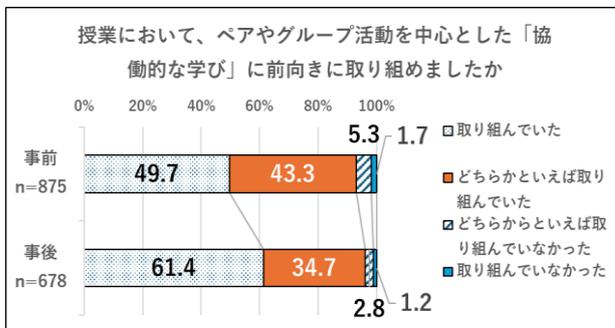


図5 「協働的な学び」前向きだったか

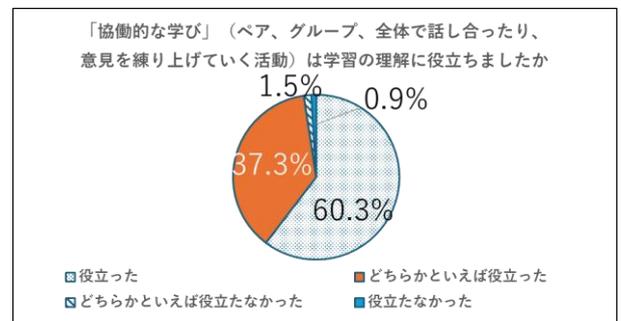


図6 「協働的な学び」理解に役立つか

表4 協働的な学びが学習の理解に役立った理由

生徒 a: 仲間からのアドバイスや議論を通してスポーツについて理解を深める事ができたから。  
 生徒 b: 自分の回答と他人の回答が一致しないことがほとんどだった。だがそれのおかげで自分の答えが正しいか疑い、人と協力して新たな答えを導くことができ考える力というのに大きく関わられたと思うから  
 生徒 c: ただひとりで授業を聞いて学習するより、他の人との会話を取り入れて共感したり、質問し合ったりしながら学習するのが楽しかった。  
 生徒 d: 自分の頭では出せないことなどを相手と協力して活動することで深い学びをすることができたから  
 生徒 e: しっかりお互いの意見を言い合って、だんだんと適切な回答に近づいていくことは順序を踏んで理解していくような感覚だったから。  
 生徒 f: 自分の意見だけでなく周りの人の意見も聞くことで自分とは違う意見や共通点を見つけて自分の意見を深めることに役立ったから。

いずれの記述からも、ペアやグループ、全体で議論したり活動したりする中で授業の理解が進み、自らの考えを深めていっている様子がうかがえる。単元デザインの中に協働的な学びを取り入れることで多くの生徒が主体的・対話的に授業に関わることができ、他者とともに練り上げた考えを自らに落とし込んで更に考えることを繰り返している。また、今回は教科内容と同時に汎用的スキルの育成も目指している。以下の表5は、汎用的スキルが育っていると捉えられる生徒の記述である。

表5 汎用的スキルが育っていると捉えられる生徒の記述

生徒 a:全体で話し合うことで自分の意見に偏りすぎないから意見や考えが広げられてより良いポイントにできたから。
生徒 b:意見をまとめる時に毎回司会進行を変えて多くの案を拾い上げるようにした。
生徒 c:グループ活動で協調性を学べた気がするから
生徒 d:自分が思っていることを相手に伝えることは難しく、わかりやすく伝えるために自分なりに様々な工夫を施し、自分の考えを伝える力がアップした。
生徒 e:自分とは違う考えの人が多くてなんでその答えになったのかななどをみんなで紹介していくのが社会に出て会社などで話し合いでも同じことをすればいいと思ったから (原文のまま)
生徒 f:ペアとどうしたら伝わりやすいかどの分野を取り上げるかを話し合って作っていくことができたから。

表5の生徒の記述からは、「意見や考えが広げられた」「協調性を学べた」「考えを伝える力がアップした」などのほか、自分と違う意見の人とのコミュニケーションの取り方、伝わりやすい方法を話し合うなど、社会に出て役立つような汎用的なスキルを取り上げる記述が散見された。パフォーマンス課題ではグループ活動を取り入れている教科もあり、皆で話し合いをしながら課題を解決した経験が、社会で活用できる力になっていることが分かる。単元の学びを進めていく中で、自分事として取り組む意欲、他者で行うコミュニケーション、論理的思考などの能力が育めたと考える。以上のことから、協働的な学びは主体的・対話的な学びにつながり、汎用的スキルの育成にも有効であったと捉える。

(3) 見方・考え方に関する考察について

本研究では、見方・考え方を「深い学び」の鍵として、各教科単元計画の中に落とし込み、実践を行ってきた。例えば数学では単元を通して確率という量に着目させ、その数値を根拠に自分の意見を述べるよう求め、数学的な見方・考え方の定着を促した。地理では、単元を貫く問いを設定し、パフォーマンス課題を課す前と後で意見を見比べ、単なる異文化理解にとどまらない、地理的な見方・考え方が働いた記述が見られた。国語では言葉にこだわって自らが「なぜ勉強するのか」という問いについて思考し、言葉による見方・考え方を働かせ、言葉の意味について考えを深めている様子が記述から見えた。化学ではパフォーマンス課題の評価基準の中に見方・考え方をに入れて生徒に提示したことで、理科の考え方を意識して働かせ、思考力・判断力・表現力等が育成できたことがうかがえた(図7)。表6の生徒の記述によると、例えば数学では、当たりと外れの割合を考えて自分でもうけを可視化しており、地学では限られた環境の中でどう生き残れるか試行錯誤して結論を得るという過程を意識し実行したことで、社会でも生かせると述べている。地理では共通点や相違点を踏まえ、どのようにして互いの苦手な部分を補い合うのかを考えており、体育ではプレイ以外の関わり方を知りより気軽にスポーツに関わりたいたいという言葉を引き出している。これらは、知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりしており、各教科等の見方・考え方が働いていると考えられる記述である。

以上のことから、生徒が各教科の見方・考え方を意識した学習活動を行ったと捉えることができ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」に近づけたのではないかと考える。

評価	「パフォーマンス課題」における考察【思・判・表】の評価基準(ルーブリック)
A	実験結果と関係付けながら、求めた物質の分子量を比較し、工場で漏れ出した有機溶媒について表現している。 理科の考え方:「関係付け」、「比較」
B	物質の分子量を求め、工場で漏れ出した有機溶媒について表現している。
C	評価Bに満たない

工場から漏れ出した有機溶媒

—考察—

気体の分子量から サンプル液体はエタノールだと思う

なぜなら 分子量の平均が50前半だから

自分のグループは、質量が小さすぎたので

26という分子量に 関係した

クラス全体の実験結果と関係付けて

実験結果

水道水で冷却し液体を凝縮するときに  
室温にせどさずすぐ質量を測って  
しまったからおかしかったかも。

図7 化学のパフォーマンス課題

表6 見方・考え方が働いていると考えられる生徒の記述

生徒 a:あたりとはずれの割合を考えて、いかに引かせられるかや儲けられるかを1から考えるのが自分で儲けを可視化することができたから (数学)

生徒 b:共通点、相違点を知り、どのようにして互いの苦手な部分を補うのか考えていくことだと思う。そうすると自然と相手を否定しないで認めることができるから。(地理)

生徒 c:こだわったことば「人生」理由「色々な人に何故勉強するのかについて聞いたときによく出てきた言葉だと思うから。」(国語)

生徒 d:こだわったことば「自分のために」理由「やるもやらないも結局は自分に全て出てくると思うし、それを踏まえた上で考えたから。」(国語)

生徒 e:スポーツは、プレイするだけでなく、「見る」「支える」などのかかわり方があることを知り、もっと気軽にスポーツに関わっていきたいと思った。(体育)

生徒 f:今回の取り組みを経験してみて外出先などの地質がわかるようになった。新たな楽しみが生まれた(地学)

生徒 g:限られた環境の中でどうすれば生き残れるのかを考え、試行錯誤して結論に至るというまでの過程を意識して実行することができたので、それが社会でも活かせる能力だと思います。(地学)

(4) 次の学びに向かう力について

今回の単元等の実践を通して、生徒が主体的に学習に取り組んだか、次の学習に向かう力になったかを考察したい。元々授業には興味を持って取り組んでいる生徒たちだったが、事後では95%の生徒が肯定的に答え、中でも「取り組めた」の回答が20ポイント近く伸びている(図8)。その理由としては、今回の学びが生徒にとって実生活に生きる学びだったことが挙げられる。

「これまでの学びが実生活に役に立つと思いますか」の問いに肯定的な回答が6割弱だったのに対し、事後アンケートでは82%になっている(図9)。以下の表7は学びが実生活、今後役に立つと回答した生徒の記述である。記述では、教科内容そのものも出てきたが、協働的な学びなど単元の中の学び方、パフォーマンス課題での課題解決を取り上げた生徒が数多くいた。これは、生徒が単元の最初で問いを持ち、対話的に取り組み、最後のパフォーマンス課

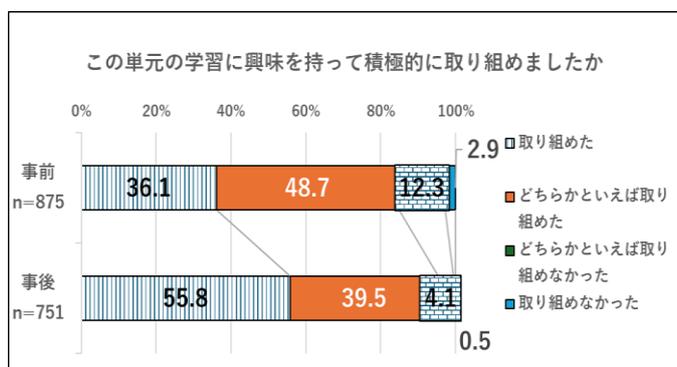


図8 単元の学習に積極的に取り組めたか

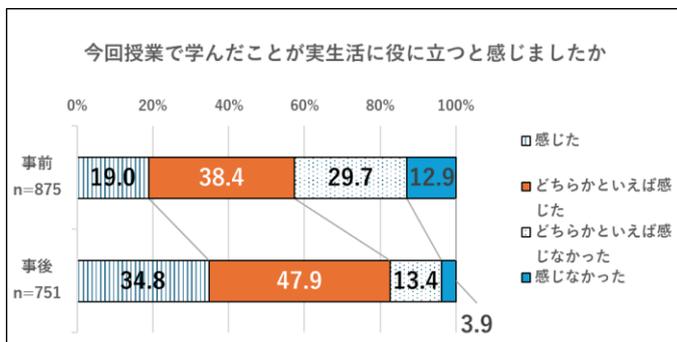


図9 内容が実生活に役立つと感じたか

表7 学びが実生活、今後役に立つと回答した生徒の記述

生徒 a:体内の変化を学ぶものだったので実生活で変化が起こると何が必要か、どうすればよいかなど学ぶことができたから

生徒 b:留学や海外へ旅行に行くときに、その国の歴史的背景や独自の文化などを積極的に調べて、自分とは違う良さを見つけられると思った。

生徒 c:身の回りで起きてる現象がどのような原理で起こっているのかを理解することができたから。

生徒 d:自分の目標や夢を優先しながら支出管理を自分で行う力身についたと感じたから。

生徒 e:自分の意見を英語で言えるようになる事が 実生活で役に立つと感じました!

生徒 f:観客としてしか関わらなかつたイベントの運営の仕事をして、運営にも興味をもてたから

生徒 g:ペアと協力して課題に取り組むという経験は将来チームを結成し一つの仕事に取り組むときに役立つと思うから。

生徒 h:将来仕事で研修を受ける機会があったら今回の単元で学習したグループ活動の経験が生かせると思った。

題に自分事として取り組んでいく中で主体的になっていった、と捉えたい。

次に、今回の実践を通して生徒が自分で学んだかを質問した。事前と事後で学習を全くしないとした生徒が約 15 ポイント減り、週 1 日から 2 日行う、とした生徒が約 15 ポイント増えた (図 10)。成果としては物足りないところもあるが、「今回の取り組みを受けてこの科目に関する学習を自主的に行う意欲が出ましたか」の質問で 7 割以上の生徒が肯定的に答えていることを成果とし、実際の学びにどうつなげるかは今後への課題としたい (図 11)。

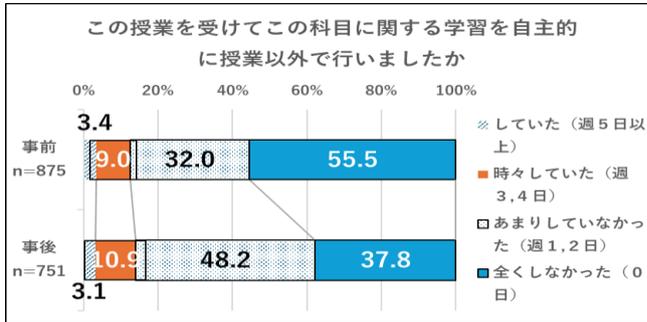


図 10 科目に関する自主的学習の割合

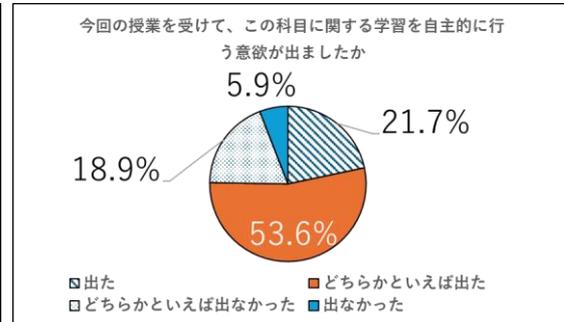


図 11 授業後の自主的学習への意欲

## 2 研究協力員の考察

### (1) 協力員の変容について

今回の実践を受けての協力員の意識、取り組みの変容について考察したい。事前アンケートでは単元の見通しを持って授業をしているか、それを生徒に伝えているか、の質問に対してほとんどの協力

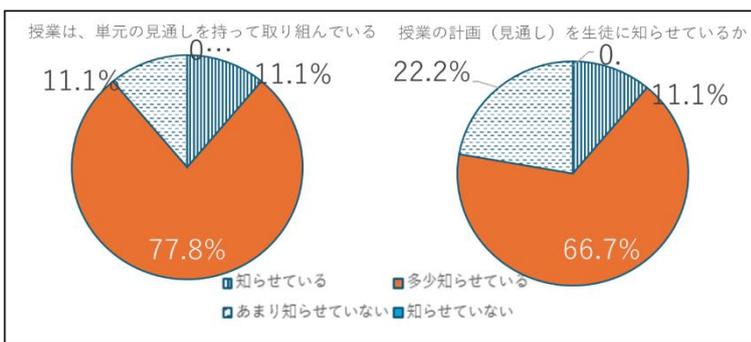


図 12 見通しを持って授業を行い、それを生徒に伝えていたか

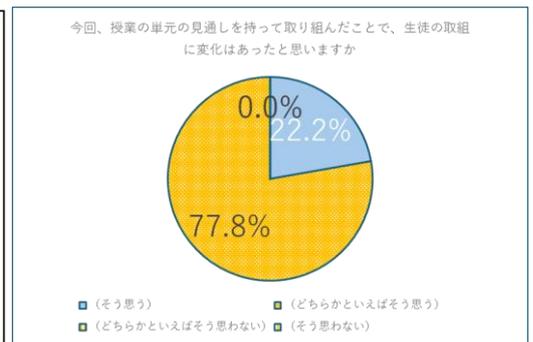


図 13 事後の変化

員が「まあまあ行っている」の回答だった (図 12)。事後アンケートでは多くの協力員が自身の授業実践に変化があったと回答した (図 13)。以下の表 8 はその具体である。

表 8 単元を見通して授業をすることで自身の取り組みに変化があった理由

- 教諭 a: 単元を見通すことで、より生徒たちに単元の目標に近づく発問ができたと思う。
- 教諭 b: 事前に生徒へ流れを知らせることができた。
- 教諭 c: パフォーマンス課題を設定したことで、授業者自身が見通しをもって授業を行うことができたと思うため。最終ゴールを明確にすることで、声かけの質や頻度などが格段に向上したと考える。
- 教諭 d: 単元の見通しを立てる事で、単元を通し身に付けてほしい力 (単元を貫く問い) を育めるよう、学習の要点を細かく検討し、指導する事ができた。
- 教諭 e: 単元前に時間を取られるかもしれないが、始まってからの全体的な指導やスキルテストを事前に表示できたりしたので、生徒へ多く還元できたと感じた。

協力員自身が単元の見通しを持つことでゴールが明確になり、単元中の学びや発問に生かせることがうかがえる。最後の感想からも、「生徒にどう理解させ、その知識を使いどう考えさせるか、という視点で授業構成を練ることが出来た」「教科書の範囲も踏まえながら、より深い学びに繋がる教材選定のヒントにもなり、自らの資質向上にも繋がる有意義なものでした」などの声があり、協力員の授業改善の一助になったと考える。一方で、「生徒の考えを事前予測することが難しく、都度ワークシートの手直しがした。また 1 コマ計画の授業が 2 コマかかる等課題が出た」「単元前に時間を取られる」「業務量の多さから始めてしばらくまでは不安の方が大きかった」等の課題も出た。より目の前の生徒に合った授業計画、先生方の負担感軽減のための事例蓄積等も考えねばならないと感じた。

(2) 生徒の変容について

研究協力員が見た生徒の変容について考察する。教師が単元の見通しを持って取り組んだこと、評価規準を事前に伝えたことで生徒の取組に変化はあったと思いますか、の質問ではほとんどの協力員が肯定的な答えだった(図14)。理由としては、「評価規準を意識した取組が見られた」「活動が主体的になった」「活動的な課題を出し、取り組ませることで、自分事として考え意欲的に学習に取り組む姿があった。全ての授業できちんと学習の振り返りができていた」等の回答で、こちらの想定どおりの結果であった。課題としては「見通しを伝えたが3割程度の生徒は理解していなかったので伝え方について

再考が必要」「単元途中からパフォーマンス課題への意識が強くなりすぎてしまい、単元を貫く問いの印象が薄くなってしまっていたのではないかと反省している」等があった。単元の見通しを持つこと、事前に評価規準を伝えることは生徒・教師双方に良い効果があることが改めて示せた。

次に、「今回の単元の授業、パフォーマンス課題で生徒の思考力は育まれたと思いますか。」の問いには、全ての協力員が肯定的な回答であった(図15)。その理由が以下の表9である。

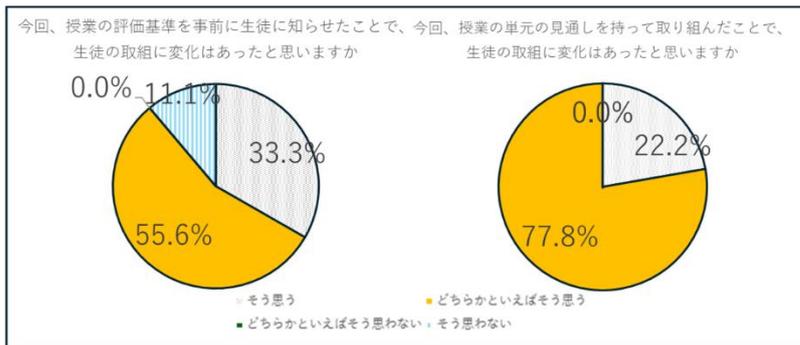


図14 見通しを伝え、取り組んだことで生徒に変化はあったか

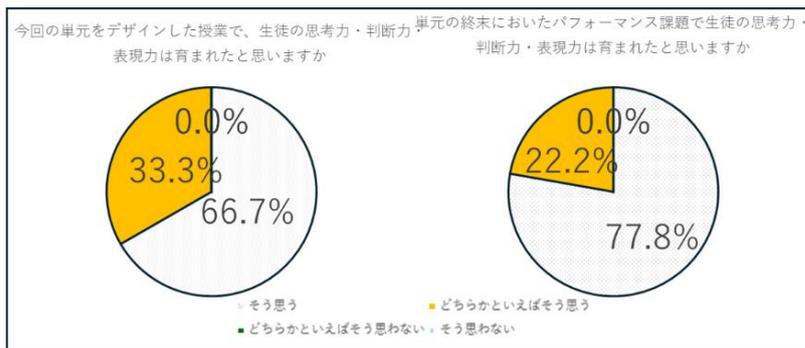


図15 単元デザインとパフォーマンス課題で生徒の思考力は育まれたか

表9 単元の授業、パフォーマンス課題が生徒の思考力を育んだと考える理由

<p>教諭 a: 毎時間記入する振り返りシート、各授業における課題(ワーク)活動において、自分の考えをまとめたり、考えたりする機会を多く持てた。他者の意見を聞いたり、自分で決定する場面を設けたりと、思考力・判断力・表現力の育成ができる授業だったと考える。</p> <p>教諭 b: 意見交換や自分の言葉での表現をここまで一生懸命に取り組んでいる姿を初めて見ることが出来た。また、考えていることを上手く表現できないことにもどかしさを感じている生徒もいて、思考が深まっている様子が多く見られた。</p> <p>教諭 c: 自分の考えを述べる展開やまとめで、教科書から正答(っぽい)を書き出す傾向が高いと思うが、自分なりに考えて根拠を持って取り組んでいた。</p> <p>教諭 d: 地質図や距離スケール、数学の知識から地層断面図を描く方法を模索することで、多角的視点や空間認知能力が少しは育まれたのではないかと思う。</p> <p>教諭 e: これまで定期テストに向けて取り組ませていた問題演習や実験の内容を自分ごととして取り組み理解しようとする姿勢が感じられ、ワークシートの記述にも生徒自身で考えている過程が見とれた。</p> <p>教諭 f: 課題を自分ごととして、グループで学習事項や結果を共有して、そこで整理した内容や自分の考えをまとめて記述する作業を通して力がついたと感じます。</p> <p>教諭 g: 生徒が生徒自身のことばを使って自分なりの答えを導き出していたと感じたため。</p> <p>教諭 h: 授業後も生徒同士の話し合いや検証作業などの活動をしている姿が見られた。また、職員へ自分の考え方に関する質問をする生徒が増えた。</p>
--

生徒の記述同様、単元の授業に主体的・対話的に取り組み、パフォーマンス課題に自分事として課題解決に取り組む中で深い学びとなり、思考力・判断力・表現力等が育成されているのが分かる。課題と

して、グループ活動の多さに、元々苦手な生徒が体調不良を訴えて休みが増え、対象授業を途中で打ち切らざるをえなくなった教科があった。他の生徒はいい効果が出ている様子であったが、そのような生徒は他にもいると考え、個別対応の方法、よりよい授業の在り方を研究していく必要があると感じた。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- ① 終末にパフォーマンス課題を位置付けた単元デザインは思考力・判断力・表現力等の育成に有効であった。
- ② 主体的・対話的で深い学びは汎用的スキルの育成にも有効であった。
- ③ 様々な学校でこの取組が有効であることが示せた。

#### (2) 課題

- ① グループ活動などの学びが苦手な生徒への対応
- ② より目の前の生徒に合った課題設定、授業展開の工夫
- ③ 各教科におけるより多くの実践事例の構築

#### 〈参考文献〉

- 遠藤孝夫 2019 『「主体的・対話的で深い学び」の理論と実践』 東信堂  
 西岡加名恵 石井英真 2019 『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価「見方・考え方」をどう育てるか』 日本標準  
 文部科学省 2018 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」  
 文部科学省 2018 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編」

#### 〈参考 Web サイト〉

- 「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理（令和6年9月18日）」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/184/gijiroku/mext\\_00012.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/184/gijiroku/mext_00012.html)（最終閲覧2024年10月）  
 「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」  
[https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt\\_syoto02-000012321\\_2-4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf)（最終閲覧2024年10月）  
 「新しい指導要領の考え方」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/\\_icsFiles/afieldfile/2017/09/28/1396716\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2017/09/28/1396716_1.pdf)（最終閲覧2024年5月）  
 「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会—論点整理—（平成26年3月31日）」  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2014/07/22/1346335\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/07/22/1346335_02.pdf)  
 （最終閲覧2024年10月）  
 「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（2020年6月）」  
[https://www.nier.go.jp/05\\_kenkyu\\_seika/pdf\\_se](https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_se)（最終閲覧2024年10月）